心連心
Heart to Heart

心連心：中国高校生長期招へい事業

第7期 報告書

平成24(2012)年8月28日～平成25(2013)年7月20日

心連心：中国高校生長期招へい事業

第7期 報告書

目　次

1.　はじめに …… 1

2.　事業紹介 …… 2

3.　生徒名簿 …… 3

4.　アルバム …… 4

5.　帰国を前に ー作文集ー …… 12

6.　メッセージ …… 44

7.　七期生32人に聞きました！ …… 49

8.　七期生を受け入れて …… 55

9.　あとがき …… 59

はじめに

平成24年8月28日に来日した「心連心：中国高校生長期招へい事業」の第七期生32名は、翌平成25年7月20日、11ヶ月の研修を終え、全員が無事帰国いたしました。

全国23都道府県における研修期間中は、受入校の皆様をはじめ、ホストファミリーの皆様、地域の皆様など、多くの皆様に暖かく見守っていただき、数々の貴重な体験をさせていただきました。

とりわけ、平成25年2月、中間研修のため訪れた南三陸町では、震災後2年を経てまだ被害のあとが生々しく残る現場をご案内いただくとともに、仮設住宅にお住まいの皆様と中国の旧正月にちなんだ懇親の機会を設けさせていただきました。お世話くださった関係者の皆様に改めて御礼申し上げます。

本事業は今期で7年目を迎え、第一期生から第七期生までの研修終了者は237名に達しました。平成23年秋には一期生のうち数名が中国の企業や日本の企業に就職し、いよいよ心連心プログラムの卒業生が社会に巣立ち始めています。

昨年来、日中関係は困難な時期を迎えておりますが、こうした時期だからこそ、将来の日中交流を担う青少年の間で交流を深め、信頼感を形成することが大切であるという点においては、日中双方とも意見が一致しております。国際交流基金日中交流センターとしましては、今後も引き続き、本事業を柱とした両国の青少年交流の促進、交流を担う人材の育成に努めて参る所存です。

縁あって第七期生の研修にご協力いただきました関係各位におかれましては、今後とも引き続きご指導ご鞭撻のほど、謹んでお願い申し上げます。

国際交流基金日中交流センター
所長　　阿南　惟茂

「心連心：中国高校生長期招へい事業」とは

「心連心：中国高校生長期招へい事業」は、未来志向の日中関係を築く礎として、より深い青少年交流を実現させるため、日中両政府間の合意に基づく事業としては初めての中国人高校生の長期招へい事業として、2006年度に開始されました。本事業では“心と心をつなぐ”をモットーに、「心連心」というプログラム名称を用いています。

中国政府の推薦と国際交流基金の直接選抜を受け、本事業の第七期生として2012年8月末に来日した中国高校生32名は、日本各地に滞在し、様々な活動を通じてホストファミリーや日本の高校生達との絆を深めました。

本事業は、中国の高校生に日本滞在の機会を提供し、その生活を通して日本の社会と文化を知ってもらい、同時に日本の高校生たちにも同年代の中国の高校生と交流する機会を提供するものです。直接に交流し、心と心を結び合うことで、日中両国の長期的な関係発展の基礎となる若い世代の信頼関係を築くことを目指しています。

【実施概要】

◆期　間

2012年8月28日～2013年7月20日

◆実施体制

中国国内での招へい生選考…国際交流基金と中国教育部が共同で実施
日本国内における受入れ…受入校と国際交流基金が共同で実施

◆招へい生徒

全32名（女子25名、男子7名）
平成24年度は遼寧省、北京市、天津市、河北省、山西省、山東省、河南省、陝西省、上海市、江蘇省、湖北省、湖南省、四川省、広東省より選抜

◆国内受入地

北海道、岩手県、秋田県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、富山県、福井県、静岡県、愛知県、三重県、京都府、大阪府、奈良県、和歌山県、岡山県、島根県、広島県、香川県、高知県、鹿児島県、沖縄県

◆経費負担

学費や教科書代・副教材費、制服代など生徒が学校に支払うべき経費を上限100万円（寮の場合は150万円）の範囲内で国際交流基金が支弁

◆企業協力

特別協力：全日本空輸株式会社
協　　力：株式会社資生堂

「心連心：中国高校生長期招へい事業」第七期生名簿

No.	氏　名	氏　名	性 別	出身地	受入高校	都道府県
1	徐　寧馨	XU Ningxin	女	遼寧省	高松第一高等学校	香川県
2	夏　婧芯	XIA Jingxin	女	遼寧省	千葉市立稲毛高等学校	千葉県
3	雒　雪婷	LUO Xueting	女	遼寧省	立命館中学校・高等学校	京都府
4	張　文寧	ZHANG Wenning	女	遼寧省	北海道札幌清田高等学校	北海道
5	王　暢	WANG Chang	女	遼寧省	大阪府立大手前高等学校	大阪府
6	関　佳欣	GUAN Jiaxin	女	遼寧省	沖縄県立開邦高等学校	沖縄県
7	張　心育	ZHANG Xinyu	男	遼寧省	立命館宇治中学校・高等学校	京都府
8	周　正	ZHOU Zheng	女	北京市	静岡学園高等学校	静岡県
9	李　諾嵐	LI Nuolan	女	北京市	広島県立安芸府中高等学校	広島県
10	李　博涵	LI Bohan	女	天津市	和歌山県立那賀高等学校	和歌山県
11	秦　瑞廷	QIN Ruiting	男	天津市	敦賀気比高等学校	福井県
12	黄　麗薇	HUANG Liwei	女	天津市	松江市立女子高等学校	島根県
13	胡　玥	HU Yue	女	河北省	埼玉県立蕨高等学校	埼玉県
14	徐　幸子	XU Xingzi	女	山西省	神村学園高等部	鹿児島県
15	楊　賛	YANG Zan	女	山西省	大東文化大学第一高等学校	東京都
16	周　潔如	ZHOU Jieru	女	山西省	光ヶ丘女子高等学校	愛知県
17	祝　暁明	ZHU Xiaoming	女	山東省	広島市立舟入高等学校	広島県
18	郭　雅菲	GUO Yafei	女	山東省	沖縄県立向陽高等学校	沖縄県
19	何　璐	HE Lu	女	山東省	奈良市立一条高等学校	奈良県
20	杜　天佑	DU Tianyou	男	河南省	立命館慶祥中学校・高等学校	北海道
21	章　李強	ZHANG Liqiang	男	陝西省	大阪府立夕陽丘高等学校	大阪府
22	許　佳傑	XU Jiajie	女	上海市	高知県立高知西高等学校	高知県
23	荘　暁桐	ZHUANG Xiaotong	女	江蘇省	盛岡中央高等学校	岩手県
24	劉　佳妍	LIU Jiayan	女	江蘇省	三重高等学校	三重県
25	厳　辰	YAN Chen	女	江蘇省	京都府立北桑田高等学校	京都府
26	王　丹妮	WANG Danni	女	湖北省	鹿児島県立武岡台高等学校	鹿児島県
27	周　嘉鳴	ZHOU Jiaming	男	湖南省	秋田県立秋田北高等学校	秋田県
28	陳　穌僥	CHEN Suyao	男	四川省	富山県立伏木高等学校	富山県
29	奉　煜坤	FENG Yukun	男	四川省	岡山県共生高等学校	岡山県
30	満　雪陽	MAN Xueyang	女	四川省	横浜市立みなと総合高等学校	神奈川県
31	黄　晨	HUANG Chen	女	広東省	鳳凰高等学校	鹿児島県
32	鐘　冰雯	ZHONG Bingwen	女	広東省	桜丘高等学校	愛知県

アルバム：第七期生の1年間

来日研修 in 東京 2012年8月28日～9月1日

8月28日、「心連心：中国高校生長期招へい事業」第七期生32名が来日しました。5日間の研修の中で、日本の生活習慣や日本人の考え方、生活の注意点等を学びました。また、中野区国際交流協会にご協力いただき、ボランティアの皆さんと街を歩き、日本の生活に慣れてもらうための実践的なアドバイスをいただきました。そのほか、中国大使館教育処と外務省に表敬訪問、科学技術館を見学し、来日歓迎レセプションでは、多くの方の励ましをいただき、これから始まる留学生活に期待を膨らませ、全国各地へ旅立っていきました。

外務省へご挨拶

ようこそ
日本へ！

心連心の先輩も
来てくれました

「先生！
宜しくお願いします。」

これから１年
頑張りま～す！
中国高校生長期招へい事業
第七期生　来日歓迎レセプション

留学生活：私たちの日常

全国各地に移動した七期生たちは、友達や先生、ホストファミリーの皆さんに支えられ、日本での生活をスタートさせました。日本の高校生活では、日本人学生と同じように授業、テスト、部活や学校行事に参加。最初は初めて体験する様々な出来事に戸惑い、壁にぶつかりながら、皆の輪の中に入っていきました。日本の家庭では、長期・短期に関わらずホームステイを経験、家庭生活の中で深い交流を行いました。

弓道部☆
集中！

日本の兄弟ができました！

地域のおまつりに参加

寮のクリスマスパーティー！

你好

初めての着物、きれいでしょ？

中間研修 in 宮城　2013年２月２日～６日

留学生活の折り返し地点となる２月、招へい生全員が宮城県に集まり、４泊５日の中間研修を行いました。前半を振り返りながら、来日した目的の再確認や残り半年の目標設定を行いました。また、今回は「生きる力・地域の再生」をテーマに、東日本大震災の被災地・南三陸町と石巻市雄勝町を訪問。仮設住宅集会所で春節パーティーを開催し交流を深め、ボランティアやワークショップを通して、復興に向けて精一杯生きる方々のたくましい姿を目に焼きつけました。最後に、仙台育英学園秀光中等教育学校との交流会では、研修を通して学んだこと発表しました。

久しぶりに会った仲間たちとの再会に喜びつつ、残りの留学生活での更なる成長を誓い合いました。

ボランティア活動にも参加

こんがらがっちゃった
人間知恵の輪!!

南三陸の「経木」ワークショップ

松島のかもめたちと

仙台育英学園秀光中等教育学校の皆さんと交流会

帰国前研修 in 東京　2013年7月17日～20日

日本の各地で留学生活を送ってきた第七期生32名は、11ヶ月の留学生活を無事終え、ついに帰国を迎えることとなりました。

7月17日、お世話になった皆さんと別れ、一同は東京に集結。最後の総括となる「帰国前研修」では、日本の大学進学についての講義や早稲田大学訪問、また都内見学を行いました。帰国前報告会では、代表生徒による挨拶や一部の学生が留学生活で学んだ成果を披露しました。修了証書を手にした彼らは、来日当初と比べ大きく成長していました。

そして、7月20日、11ヶ月間の思い出を胸に、母国・中国へと旅立っていきました。

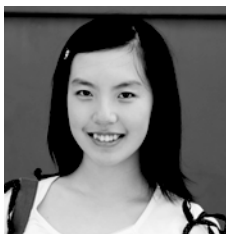
修了証書授与…

日本で学んだ成果を
発表しました！

空港まで見送りに
来てくれました！

涙の別れ…

1年間、どうもありがとうございました！



今、心からありがとう

XU Ningxin

高松第一高等学校／東北育才学校
徐　寧馨

“そろそろ帰るのか。早いですね。”

“また日本に戻る？”

最近、このような言葉をいっぱい聞いた。ふと振り返ると、もう日本で10ヶ月過ごした。初めてみんなの前に教室に入った場面をはっきり覚えている。まるで昨日のことのようだ。

そうだね。まるで昨日のことのようだ。

きつい体育の授業で心配すること、人間関係で困ること、文化祭のときまだ何も分からなくて、準備しているみんなの間に馬鹿のように立っていること、部活でみんなといっしょに遅くまで頑張ること。楽しい思い出も、悲しい思いでもいっぱい作った。

―― 頼りなかった僕も少し大人になり。

育才学校出身の私は、自分がどんな試練も経験したと思っていたけど、香川県に来て、私が知っていた世界と全然違っている世界に入った。

故郷はにぎやかな大都市だから、にぎやかなところの大好きな私にはショックだった。暇なとき何をすればいいか分からなくなった。中間研修で、東京駅の大勢の人を見ていたら、涙が湧いて出そうな気がした。そんなにぎやかな場面は久しぶりで、懐かしかったから。

学校の外国人は私しかいないから、日本らしい学校だ。この学校に入る瞬間から、なんでも日本人の基準でやらないといけない。言葉使いがわからなくて、ほかの人に怪しいと思われるのは何回もあった。

先輩への尊敬は日本人にとっては当たり前のことだけど、能力で勝負を信じているわたしにとっては受け入れにくかった。千人の力というNHKの番組が学校に撮影に来て、物理部の一員の私は実行委員会に入った、会議で討論する人は2年生ばかりで、私たち1年生は黙るしかなかった。アイディアがあるのに言えないので困ったけど、千人の力の準備の3ヶ月間に、先輩のほうが経験者であり、私よりは価値のある経験を出せることを分かるようになった。

小学校のときからクラスで注目されていた私は、自分が別にどこに行っても重視される人間ではないということを初めて分かった。

成長させてくれてありがとう。

―― いつも僕の味方でいてくれた。

この一年、いろいろ思い出を作った。国語を勉強する自信を与えてくれた細谷先生、物理の授業をアレンジしてくれた佐藤先生、親切にしてくれた部活の顧問の先生たち。迷惑をかけるわたしにいつも親切にしてくれて、安心させてくれてありがとう。

私の6人の友達、初めてクラスに入った時、一緒に弁当を食べようと誘ってくれて、友達になって、日本の学校生活について何も知らない私にすべてのものを説明してくれた。商店街の場所を教えて一緒に遊びに行ったりして、外国人の私は価値観が日本人と多少違うところがあるから、おかしい言葉を言うのがよくある。そのようなことに気にせずに、全然距離感なく私と友達なってくれてありがとう。

―― 返しても返しても返しきれない、その感謝と敬意を伝えたい。

私と毎日付き合ってくれる先生、友達、いつもそばにいて応援してくれた人たち、この一年間いろいろお世話になった。

今、心からありがとう。

贅沢な思い出をくれて、ありがとうございます

XIA Jingxin
千葉市立稲毛高等学校／東北育才学校
夏　婧芯

9か月の留学生活は本当に思ったより早かったです。私の足が初めて日本の国土を踏んだのは、まだ昨日のことのようです、もう日本での留学生活はあと一ヶ月ちょっとしかないです。

この9ヶ月を振り返って、特別なことはあまりありませんでした。9ヶ月前の自分と比べると、日本語を自在にしゃべれない私は、31名のほかの留学生と一緒に飛行機に乗って日本にきました。意外に不安もなく寂しい気持ちもなかったです。みんなで一緒に過ごしたときは楽しかったです。それから、みんな分かれて、自分の留学先を向かいました。

ホストファミリーも、学校の先生も、クラスメートもみんな優しいです。たぶん国際教養科ですから、外国人の気持ちをよく理解できて、最初から私をクラスの一員と受け入れて、とてもありがたいです。みんなと一緒に笑ったり、お昼を食べたり、電車に乗ったりして、本当に楽しかったです。球技大会の時、みんな一緒に頑張って、疲れたんですけど、それは貴重な経験です。茶道部に入って、友達から難しいお手前を少しずつ勉強してきました。日本語もだんだんしゃべれるようになってきて、授業もだいぶ分かれるようになって、苦手な古文もがんばって少しできるようになりました。ホストファミリーは、たくさんの留学生を受け入れたことがありますから接しやすいです。ホストマザーはわたしともう一人のアメリカ人の留学生を連れて、いろんな体験をしました。私は琵琶を持ってきたんですけど、壊れました。日本で演奏しようと思いましたけど、突然壊れて本当に困ったんですが、ホストマザーはいろいろ考えてくれて、私を連れて行ってくれて琵琶を直しました。ホストマザーのおかげで、そのあといろんな人に琵琶を演奏できたんです。

11月は病気になって、動けないようになって、二週間休みました。ホストファミリーの方は大変お世話になったんですけど、それでも孤独感が潮のようにやってきて、ホームシックになりました。家族と連絡を取ってから病気もだんだん治って、それでよくなってきました。ホストファミリーに迷惑をかけて、本当に申し訳ないんですけど、いろいろお世話になって、ありがたいです。

それからまた、新しい生活を再開しました。中間研修の時、みんなと再会して楽しかったです。みなさんと先生たちから勇気をもらいました。学校も順調でした。また友達とディズニーランドとか、科学館とかに遊びに行って、茶道も活躍できるようになりました。毎日電車とバスで学校を通うこと、教室に入って、元気なみんなにおはようをいうこと、優しくてかわいい担任の先生の関西弁を聞くこと、月曜と木曜に部活に行ってお茶をたててきれいな和菓子を食べてお手前をやること、ホストファザーのおいしい夕飯を楽しみにすること、一緒にテレビを見て笑ったり、しゃべったりすること…これらはもうすべて習慣になってきました。帰国した後、これらが全部できないようになるのを想像すると、寂しくなります。とんでもない生活の細かいことなそうですけど、実はすべて贅沢な思い出です。こんな思い出をくれたみなさん、ありがとうございました。

これからはまた文化祭があって、稲毛高校での最後のイベントを完璧にできて、楽しめるようにしたいと思います。学校の皆さん、先生方、ホストファミリーへの感謝の気持ちを込めて、11ヶ月の留学生活を円満なピリオドを書けるように、頑張りまーす！

成長

LUO Xueting

立命館中学校・高等学校／東北育才学校
雒　雪婷

京都、立命館高校、うちはずっと恵まれてきたと思います。京都には東京のように高いビルがたくさんある大都市の感じじゃなくて、お寺や神社がどこにでもあって、中に入るとすぐ落ち着けるし、暮らしやすいイメージを持って京都に来ました。

通学の初日にはみんなが親切に挨拶してくれて、私はすぐ持っていた不安や心配を捨てました。文化祭が九月にあって、すぐ近づいていたから、みんなと一緒に頑張って、お化け屋敷をやって、優秀賞を取ってめっちゃ楽しかったです。打ち上げのときに自分がクラスの一員になったということを感じて感動しました。

一年間の留学生活は短いと思うか、長いと思うか人によって、違うでしょう。自分の気分もいつの間にかに変わりました。立命館高校は毎年時期が違うけど、たくさんの留学生を受け入れています。うちが来たばかりの時、一年間がかなり長いかなと思っていてどうやって過ごすかまったく準備が出来ていなかったから、周りの後三ヶ月ぐらいに帰国できる留学生を見て、羨ましくてたまりませんでした。クラスメートや部活の友達とだんだんうまく付き合っていて、日本の留学生活を楽しめるようになりました。三年生の一学期に入ったとき、自分もやっと留学生の中で、先輩になりました。新しく来たドイツ人を見たら、まだ一年間あっていいなぁって自分も信じられないほど思いが大きく変わりました。多分その時から、帰りたくないという気持ちを感じ始めました。

春休みになってから、友達と遊びに行く日もだんだん多くなりました。宇治や大阪や清水寺でいい思い出をいっぱい作りました。やっとこっちの生活に完全に慣れてきて日本人のように日本の生活を楽しむことができるようになりました。

三年生になって、学校の先生と相談して、スーパーサイエンスクラスに転じることになりました。校舎は他のクラスと違って元のクラスメートにはあんまり会えなくなったけど週に三回立命館大学に行って、大学生と一緒に講義を受けたり、数学のゼミをやったり、毎日やる気がいっぱいでとても充実しています。

この一年間、立命館高校でしか出来ないこともいっぱいやらせてもらって、感謝しています。振り向いてみれば、九月の文化祭、十一月のJSSF、二月の沖縄修学旅行、三月の演劇部合宿、四月の新入生歓迎公演、五月のチャリティーコンサート、六月のシンガポールNUS高校との名古屋研修、模擬国連、どれも私にとって、貴重な経験になりました。いつになっても忘れられないと思います。これらの活動を通じて友達もいっぱい作りました。

最初私は教室の前に立って、みんなに挨拶ぐらいの話をしても緊張してしまいました。いつの間にか緊張せずに高校のホールに10分間の文化発表が出来るようになりました。さらに、先日のNUS高校との名古屋研修の発表会で英語で司会をやらせてもらって、模擬国連で関西の高校の代表たちの前で90秒のスピーチをやりました。頑張って、頑張って、出来るようになった時、努力したかいがあってかなり成長したなぁと自分で思っています。

ホストファミリーはちょっと特別で、同時にたくさん留学生を受け入れています。色々な外国人とも交流できます。最初のお互いに緊張感を持って遠慮していたから今の何でも話すことができてめっちゃ仲良い友達になったので、不思議な展開だなぁとよく思います。

残っている留学生活は一ヶ月しかないですが、楽しく過ごしたいと思います。友達も私を待っていてください。約束してね、一年後にまた京都に戻ってきてみんなに会いに行くから。

心と心の絆を結んで、幸せになろう

ZHANG Wenning

北海道札幌清田高等学校／東北育才学校
張　文寧

11ヶ月の留学生活はもうすぐ終わります。正直、自分はもう日本でこんな長い時間を過ごしたのは信じられない、こんなに日本語をしゃべれるようになるとは思わなかった。でも、この11ヶ月間、私が習ったのは決して言葉だけではない、日本人と一緒に住んで、学校で勉強して、自分の目でこの国を見たりして、心で日本の文化を感じました。

学校の先生たちはすごく親切でいろんなことを準備して、細かいところまで考えてくれました。感謝の気持ちがいっぱいです。ホストファミリーの家族はすごくやさしい、そのおかげで、楽しくて充実した留学生活を送ることができました。茶道や着物、和食やお正月、たくさんの日本文化を体験させました。家族と一緒にいて本当によかったと思います。

一番感動をくれたのは友達との友情です。日本人は見知らぬ人に無関心で冷たいだろうと思われますが、私が見た日本人は決してそうではないです。心を温めてくれて親切な民族です。

最初のとき、日本語は下手で、クラスのみんなと仲良くなれるか不安だった。でも、初めて教室に入ったときクラスみんなの拍手と笑顔が勇気を与えてくれて、泣くほど感動しました。すぐに仲良くなれるなんて甘い考えはもっていなかったけれど、弁当メンバーの6人に一緒に弁当を食べようと誘われた。さっき会ったばっかりなのに、私はその6人とすっかり友達になりました。友達のおかげで、だんだん日本の生活に慣れました。苦しいときももちろんあります、でも友達と盛り上がったり笑ったりして、つらいことを全部忘れてしまう。外国人という理由で差別されたりすることは全くなかった。完全に私を仲間に加えてくれました。楽しくて、時々、自分が中国人ということも忘れてしまう。友達に囲まれて、自分がラッキーだと思います。私は楽しく過ごしながら、この素晴らしい友情は続くのか、私はみんなともっと仲良くなりたくてどうすればいいかという気持ちになり、また不安だった。ですが、ある日の出来事はもっと感動をくれました。私は風邪で早退しました。中国の親にも言えないのに、ホストファミリーのみんなもかえっていないし、苦しくてたまらないとき、友達がメールをくれました。「文ちゃん大丈夫？」「ちゃんと休んでね」など、温かい言葉を見て、感動しすぎて泣き出してしまった。その瞬間私は分かりました、これこそ友達です。楽しいときだけではなく、苦しいときも互いに支えていくことこそ大切です。文化や言葉が違っても、真心を持ってまわりの人と付き合ったら、深い絆を結ぶことができる。心連心の意味も分かってきました。つまり、心と心の絆を結ぶことです。もちろん難しいです、しかし、絆を結んだらすごく幸せです。友達ができたのは一番うれしいです。これから大人になってもずっと友達にいたいです。この絆が永遠に存在するよう心からお願いします。

もう一つ、大きな感動をくれたのは私が9ヶ月間参加していた部活動です。演劇部の一員として皆さんと一緒に舞台を作って劇をやって、楽しかったです。演劇部で学んだことは数えきれないほど多いです。最初のとき正直つらかったです。ほぼ毎日部活があって、大会の時はもっと活動時間が長かった。何回もやめようと思いましたけど、なんか悔しいと思って、将来自分が後悔しないように続けました。今考えると、やめなくてよかった。清田演劇部は全北海道大会に行きました。私は皆さんと一緒に作った舞台を愛しています。涙も笑顔も宝石のように全道大会の舞台に輝きました。この9ヶ月間、みんなと一緒に過ごした時間は一生の宝物です。演劇部のおかげで、私は成長しました。困難があっても自信を失わずに乗り越えて頑張ることが大切だとわかりました。

この一年間の留学生活は一生忘れない。ずっと、頭の中、心の奥に残って、いつでも思い出したらアイスクリームを食べるように甘味があふれます。この一年間私はこの国のことを深く理解して、日本の文化を体験しました。それと同時に、できるだけ、中国の文化も教えてあげました。私は来日研修の時こういう願いを書きました。「私は日中民間文化の交流のために頑張りたい」自分が感じた温かい日本を多くの中国人に教えたい、だれでも、日本人の優しさに感動すると信じています。そして、中国のいいところを日本人に教えたい。日中友好の架け橋になるために、一生懸命頑張りたいと思います。

楽しくて、楽しくて

WANG Chang

大阪府立大手前高等学校／東北育才外国語学校
王　暢

2012年9月、日本語を上達したい、日本文化を味わいたいなどの気持ちを持ちまして、心連心第七期生の一員として、日本での生活を始まった。隣国日本での生活を通して、日本のことをもっと知るようになり、この一年間の上で、日中両国友好の架け橋の一つになるなどが目標だった。

（一）

この一年間の留学で、大阪府立大手前高校に入った。大手前高校は1886年に大阪府女学校として創立し、2011年度から大阪府教育委員会の進学指導特色校事業の対象校となり、現在でも私を含めて多くの大手前生に愛されている。

この私の大好きな大手前高校で、文化祭、校外教授、体育祭、コーラス大会、大阪城マラソンなどいろんな行事に参加することができた。その過程で、一生懸命練習した後、賞が取れたうれしさにも、みんなで蝋燭を書く楽しさにも、すごく感動した。雰囲気も良くて、楽しい学校に入って、周りにクラスを愛して、皆が大好きな子がたくさんいるなんて、非常に幸いなことだと強く感じた。

そして、高校生活の一部とする部活動も体験した。日本高校の部活動は、中国の方と比べると、大違いがある。日本のクラブ活動はもっと重視されて、賑やかだ。一度共通の趣味や興味を持つ仲間が集まった団体で活動したいと思って、剣道部と茶道部に入部した。茶道部の活動では、お茶会や日常の練習において仲間たちと一緒に稽古について討論、研究するのをへて仲良くしていた。そして、新入生オリエンテーションなどの行事に向けてみんなで努力するのも素晴らしい思い出の一つだった。袱紗をつけたまま下校してしまったり新入生オリエンテーションであたりまえ体操を踊ったりするようなこともしたが、今から思うと、楽しく活動していた日々は良い思い出だった。そして、茶道部のおかげで、抹茶が好きになった、日本文化にせっした。（「あたりまえ体操」のおかげで、二年ぶりに男子が茶道部に来てくれた。）

学校の生徒たちは、みんな真面目で、親切だった。最初の頃、よく話かけてくれて、助かった。困ったことがあると男子も女子も優しく教えてくれるのは、大手前生だった。先生の方々からも、教科書の内容だけではなく、日本のこともいろいろ教えてくださった。そして、大手前の校長先生が大好きでいつも校長先生元気な挨拶と笑顔から始まる一日は私が大手前での日々だった。楽しくてたまらなかった。

大手前高校、一年間、ありがとうございました！

（二）

日本での留学ではいろいろわけあって六軒のお家にお世話になった。

何回も引っ越ししたのは、確実に大変だったが、いろんな家庭と出会えてよかった。

日本に来た前に日本人の朝ごはんは必ず白ごはんとお味噌汁だと思っていた。実際には、朝ごはんにバターをたっぷり塗ったパンを食べる家庭も少なくない。毎日お風呂に入る時間と順番をきちんと守る家庭もあった。もっとも驚いたのは、洗濯機を外に置く家庭もあったことだ。違うところに違う人が住んでいる、違う人は違う家庭を作る、違う家庭は違う習慣がある、違う習慣によって違う雰囲気が出ってくる。いろいろ違っても共通点はある、それはみんな毎日明るくて元気に暮らしていることだとわっかた。そして、常に感謝や思いやりなどの気持ちを表現するのも大切だとわかった。

伊勢や長野などいろんなところに連れてもらった。そして、毎日おいしい料理を食べていた。いつも支えてくれて、いろんな体験をさせてくれたホームステイ先にはすごく感謝している。彼らのおかげで、心配なく一年間の留学生活を楽しく過ごした。

日本のお父さんお母さん、そして、隣のお婆ちゃん、いろいろお世話になって、ありがとうございました！

（三）

大阪府は、近畿地方の中部に位置し、京都府・奈良県・兵庫県・和歌山県と接する。古くから上方へ通じる水上交通の要地である。

幸いなことで私は大阪府に分配された。そして、大阪のことが大好きになった。

学校は大阪城公園のすぐ反対側にあるおかげで、大阪城公園でコーラスの練習や城ランなどができて、大阪城のいろんなきれいな姿を楽しむことができた。たくさんの思い出に繋がっている大阪城は美しくてしようがない。

大阪は交通機関が発達しているおかげで、一人旅が好きな私は週末に仏像を数えたり、緑を楽しんだりすることができた。もちろん、おいしいものをいっぱい食べた。

大阪！好きやねん。

一年間の留学生活、楽しかった。そして、この一年間の中で、日本の日常生活を体験することを通して、日本語能力を上達しただけではなく、世の中のいろんなことを学んだ。自分が成長ことも強く感じた。もっとも重要なのは、周りの方々と深い絆を作ったことだ。

今までいろいろお世話になった、サポートしてくださった日本の方々には心から感謝いたします。

この一年間の思い出を持ちまして、これからも頑張ります！

沖縄、いっぺーにへーでーびる！

GUAN Jiaxin
沖縄県立開邦高等学校／東北育才外国語学校
関　佳欣

一年間の留学生活が終わりかけている今、この文章で、私の一年間の沖縄での留学生活を振り返りたいと思います。

PART 1　青藍寮

ここは、全ての始まりとも言える場所です。

2012年9月2日夜、私が沖縄に着いたこの夜はとても涼しく、そよ風が頬を撫で、まるで私のことを歓迎してくれているようでした。「気持ちいい」は、沖縄に着いて、私が初めて感じたきもちでした。その時の風景は、まるで昨日のことのように、目を閉じると、はっきりと頭の中で蘇ります。「私はこれから一年間の間、こんな綺麗なところで暮らせるんだ」と思って、嬉しいという感動の気持ちが禁じを得ませんでした。

寮に向かう途中で、本当に緊張しました。まだ、日本語をしっかりと話すことが出来ない私は、「言葉が通じるのかな？」「みんなと仲良く出来るかな？」というようなことばかり考えて、心配になりました。しかし、青藍寮の皆はとても優しい顔で、挨拶してくれて、声を掛けてくれたので、心配も吹き飛びました。

青藍寮は、私の家と同然でした。寮生の100人近い皆を家族だとずっとそう思ってきました。

だから、「ホームシックにならないの？」と聞かれた時、思いきって否定の答えを出すことが出来ました。今考えると、皆がいたからこそ、私はこの一年間で寂しいと感じたことが一度もなかったのかなと思います。今でも、親切で、仲良くしてくれた皆には感謝の気持ちで溢れています。こんな和気あいあいの環境で、私は毎日を楽しむことが出来ました。勉強も行事も皆で力を合わせて、一致団結して取り組んできました。寮生恒例の寮生バレーボール大会で、一人一人がグループの為に全力を尽くしている皆の姿や先輩たちの送迎会で名残惜しい気持ちを抑えきれなくて泣きだした皆の姿、どれもこれも愛しくて、大好きでした。将来、機会があれば、また皆とこの青藍寮で暮らしたいです。

寮生の皆、一年間、本当にありがとうございました。

PART 2　開邦高校

「開邦」の意味を初めて知ったのは校長室の外に掲げられている掛け軸を見た時でした。「開邦」は「邦を開く」という意味なんだと感嘆しながら、この学校を興味津々に探検しました。きちんとしている廊下、明るい教室、生徒と先生の間の丁寧なあいさつ、生徒同士の間の元気な「おはよう」、目の前の全てが私にとっては今までの高校生活と違い、新鮮で、あまりにも素晴らしく、すれ違った生徒に挨拶された時は声すら出すことができませんでした。あの日はテストだったので私もすぐテストを受けることになりました。テストの始まる前にクラスメートに自己紹介をしました。皆はちゃんと聞いてくれてとても嬉しかったです。テストを受けている時、テストのことではなく、「この全てがまるで、夢みたいだな」と思いました。今でも、自己紹介の時に手が震えていたことや皆の笑顔、全部はっきりと覚えています。

開邦高校は沖縄のトップとして名実相伴っていると思っています。皆、頭がよくて、そして何よりも何事にも勇気を持って精一杯頑張っているという「開邦スピリット」は、開邦生に大事にされています。

一年間一緒にいたということは、私の一生の誇りです。

ここで、部活動経験がゼロの私は、初めて部活動を体験することが出来ました。日本に来る前に、部活動は高校生にとっては高校生活の中で重要な一部分だということを聞きました。ダンス部に入った私は、身をもって体験し、確かにそうであったと感じています。部活動を通して、豊かな高校生活を送り、勉強と同じくらい重要な人間関係について学ぶ、高校生の段階で自己実現ということが出来ます。部活動が私にくれたものは予想以上に多く、素晴らしいものでした。

開邦高校で一年間を送るのは私の一生の誇りです。開邦高校の皆さんと出会えて、仲良くなれて、本当に良かったと心から思います。

PART 3　沖縄

沖縄は、この日本列島の一番南にあります。この小さな島が私の一年間の思い出の場所です自然に恵まれている沖縄は、私の出身地と大きく違い、いつも私のことを驚き、喜ばせてくれました。沖縄の、言葉で描写できない美しすぎる海、雨の後の森の匂いのようなすがすがしい空気、悠久な歴史、独特な建物、見知らぬ人にも親切で優しい人々、この全部が思い出に変わると考えると、恐ろしいぐらい寂しくなりました。

私が沖縄に来たということはやはり、何か縁があるのかもしれないと思います。以前、全然気にも止めなかったことがこんなにも好きになっていて、不思議だなと思いました。沖縄は日本ですが、たくさんの外国人がここに暮していて、国際的な町とはこのことを言うんだなと思いました。国が違っても、言葉が違っても、全然違和感を感じなかったのは、皆との出会い、そして、同じ「沖縄人」として絆を強く結んでこれたからだと思います。沖縄の皆は広い心を持って、世界中の各地から来た人たちを温かく受け入れてくれました。

青藍寮、開邦高校、そして沖縄の皆にはいっぱい、いっぱいまだまだ言いたいことあるけど、伝えたいことの全部「ありがとう」です。私はまだ幼くて、世間のことがまだよくわからなくて、もろいけど、好奇心一杯の心を守ってくれました。皆のおかげで私はもっともっとたくさんの人に沖縄という素晴らしい場所があるということを知ってもらいたいです。そして、もし、出来るのならば、私は沖縄で暮らしたいと思っています。

沖縄に対する私の気持ちは決してこの二千字くらいの文章では言いきれるわけではありません。ここで暮らした一年間の月日は一生忘れることが出来ない、思い出すたび、懐かしく感じる美しい思い出になります。

沖縄の皆、一年間、本当にお世話になりました。

沖縄、いっぺーにへーでーびる！そして、大好きです！

友達、私の一番の宝物

ZHANG Xinyu
立命館宇治中学校・高等学校／東北育才外国語学校
張　心育

一年間はあっという間に終わりました。私にはまだこちらの生活が終わる気がしないのに、帰国の日はだんだん迫ってくるということ事実をそろそろ納得しないといけません。この一年間は本当に楽しく、充実して過ごすことができました。今中国に帰っても、私はぜんぜん悔いなどを残していません。私がこの一年の経験に通して感じたことを、ここで語りたいと思います。

私はまだ未成年で、人生経験はまだ豊富とは言えません。でもこの一年間のおかげで、わたしは前に一歩踏み出すことができました。立命館宇治高校に入って、いろいろな人に出会って、友達もいっぱい作りました。ともに笑ったり、ともに泣いたり、そういうこともありました。正直に言うと、日本に来る前には、自分がこんなにたくさん友達を作ることができるとは思いもしなかった。友達は一番の宝物です。だからこれこそ私のこの一年間の最大の収穫だと思います。

私は生まれてから初めて部活というものをを体験することができました。部活は今では私にとって最大の楽しみになっています。部活のときはメンバー皆が素直になれ、互いのことを親友として考えています。私はそんな雰囲気が大好きです。そして、一秒でも多く皆と一緒にいたいです。

振り返れば、実際は私は何もたいした事ををしていません、文化祭のときはまだ部活に入っていなかったし、3月の公演のときも台詞が一行しかない小さな役をやっただけです。よく考えてみると、笑いたくなるような小さな欠片ばかりです。それでも、演劇部の皆は私のことを無視せず、ちゃんとその小さなかけらたちを握り締めてくれています。本当に皆に感謝しています。

作文の最初に、私はこう言いました。「今中国に帰っても、私はぜんぜん悔いなどを残していません」と、でもそれは嘘です。私はまだたくさんやり残していることがあります。演劇部の皆と文化祭に出演したい、皆の活躍や皆の輝いている姿をもう一度見たいです。でもそれも幻想に過ぎません。だから私は今何よりも皆と一緒に過ごす時間を大切にしています。できるだけ皆と思い出を作りたい、それが私の一番の願いです。

友達は宝物です、私はこの一年間の経験を通して確実にそう感じています。皆と一緒にすごした時間はしかっりと私の心に刻まれています、そして、それは記憶ではなく、思い出として永遠に私の中に残ります。私、張心育が日本に来て、素敵な人たちに出会って、友達になった証として、永遠に。

2013年6月5日

日本、美しい国

ZHOU Zheng

静岡学園高等学校／北京市月壇中学
周　正

日本に来てもう十ヶ月になりました。この十ヶ月間、私はいろいろなところに行って、それぞれ性格の違う人と出会って、日本についていっぱい話を聞きました。そして日本の美しさをもっと深く理解しました。

私はずっと日本のおいしい空気、きれいな町、厳しいルール、優しい人が好きで日本での生活にすごく憧れていました。すばらしい国だと思います。今度の留学で私はそのすばらしい理由がわかりました。それはみんなが厳しいルールを守るからです。

私が留学している地域は毎週火曜日と金曜日に燃えるゴミを回収し、水曜日にプラスチックのゴミの回収を行います。みんなは毎日自分のゴミを持ってかえって、分類してから捨てます。ゴミは絶対にためずに分類して捨てるので、どこに行っても道には一枚の紙くずさえもなく、きれいなままです。これは日本人の性質を十分、表していると思います。

日本人はみんな自分に厳しく他人に優しくしていて思いやりの心を持っています。これは日本の美徳の一つだと思います。この前、わたしは普段と同じで友達と電車に乗って家に帰りました。その友達が老人を見てすぐ席を譲りました。それだけでなく、その老人は歩くことが不自由なので、友達は老人を目的地に送りました。結局、友達はバスに間に合わなくて、四十分をかかって家まで歩いたみたいです。わたしはこの話を聞いて、心からその子のことが尊敬しています。

私はホストファミリーのお母さんのこともすごく尊敬しています。いつのことかは覚えていませんが、家族みんなで弟さんの幼稚園の運動会に行ったとき、お母さんは隣の親子が座るところがないのを発見して、自分の敷物をその親子のために敷いてあげました。最近の人は自分のことばかりを考える人が多いと言われていますが、お母さんは周囲の人々のことを思いやる優しさを持っていました。私はその時すごく感動しました。私のホストファミリーの家族は、美しい心を持っています。多くの日本人はこのような美しい心を持っているので、日本はこのように美しい国になったのではないかと私は思います。

このような美徳は日本に、まだまだ一杯あります。例えば、借りた体操着をちゃんと洗って、アイロンをかけてから袋に入れて返すとか、公共の場所で大きな声で話さないとか、物を長く使えるように大切に使うとか、歩きながら食べ物食べないとか、迷い箸はしないとか、実例が多すぎて、数えきれないくらいにあります。

後一ヶ月でもう中国に帰ります。この一ヶ月でがんばって日本の素晴らしいルールを身につけて帰りたいと思います。この一年を価値のある一年になるように、最後までがんばりたいと思います。

永遠の記憶

LI Nuolan

広島県立安芸府中高等学校／北京市月壇中学
李　諾嵐

2012年のあの夏、北京首都空港から飛行機に乗って、11ヶ月の留学生活がこれで始まりました。初めての町、初めての学校、初めてのクラスメート、初めての家族、すべて始まりました。たくさんの期待と不安を持って、広島に来ました。

初めて安芸府中高校に入学して、皆の前に自己紹介をする時、このクラスで友達ができるかなとすごく心配しました。私は自分の席に座ってから、周りのクラスメートたちはとても熱心で学校のことを紹介してくれました。昼ごはんの時も私を呼んで、皆で一緒に喋りながら弁当を食べました。そのときからこのクラスが大好きになって、前の不安がぜんぜん無くなりました。

私はこの11ヶ月で、ホストファミリーは二家族でした。米丸さんの家で、初めて二人の子供と一緒に、毎日同じテーブルでご飯を食べたり、外で遊んだりして、本当の自分の弟と妹みたいに一緒に生活しました。私は何もできなくて、ホストファミリーにいろんな迷惑をかけました。でもお父さんとお母さんは熱心で私はたくさんのことを教えてもらって、そして学校の生活でもずっと応援してくれました。すごくやさしくて良い家族だと思っています。そして、藤谷さんの家で4ヶ月を過ごしました。年齢がお兄ちゃんとお姉ちゃんみたいに若いけど、若いお父さんとお母さんのようにたくさんのことを教えてもらって、私のことをいっぱい考えてくれていました。私に家族の暖かさを感じました。

本当にあっという間に11ヶ月の留学生活がそろそろ終わりになりますね。この一年間はとても収穫がある一年間だったと思っています。留学生活を通じて、日本語はもちろん、自立する能力も上昇したと思います。そしてこの一年間で自分の将来もちゃんと考えました。目標があって、国に帰ってから将来のために一生懸命頑張りたいと思っています。私は元の学校に戻って、前の同級生より大学に行くのは一年間遅くても、この一年間もらった経験と思い出は何にも比べられないと思います。これは一生の宝物だと思います。

私は去年の夏から来て、今また夏に入ってきました。夢みたいな一年間。時間がここで止まりたいです。もっともっとたくさんの思い出を作りたいと思っています。「さようなら」っていう言葉は私一番言いたくない言葉です。でも終わりがなかったら新しい始まりもないから、国帰ってもここのことを忘れないと思います。

じゃあ、いってきますね。また帰るから。この一年間でみんなに出会えて、本当によかったと思います。本当にありがとうございました。ここでの思い出はいつまでもずっと大切に私の心に保存します。

出来上がった、新しい自分を！

Li Bohan
和歌山県立那賀高等学校／天津外国語学院附属外国語学校
李　博涵

「もう夏だな。あと一ヶ月ね。」
「一ヶ月しかないの？」
「うん…」
「帰らんといて！はくちゃんがおらんかったら、寂しいわ」

ありがとう、みなみ。
そのとき本当に感動しました。

わたしの名前は李博涵です。港の町である天津からきました。高校二年生で、和歌山留学中です。茶道部と卓球部に入っています。今留学生活楽しんでいます。
最近の口癖は「今日もいい一日になるでぇ！」。笑顔でこれ言ったら、本当にいい一日になれますよ！笑顔は大事って日本で学びました。

「なぜ日本へきましたか？」とよく聞かれました。

それは、逃げたかったからです。
確かに食べるのは大好きで、日本料理に興味があって、マンガとかも好きです。だけど本当の理由はこれらじゃないです。中国でいる間、お母さんに勉強ばかりさせられたり、やりたいこともできなくなったり、よくできたことがあっても、わたしの努力とは認めずに当たり前のことだと言われたりしました。そういう生活にいやになったから、わたしは日本へ逃げてきました。

「なぜあいあう生活を送っていましたか？」

わたしの不幸です。と日本へ来る前は思っていました。でも、日本でもいろいろなことで、わたしの考えもちょっとずつ変わってきました。
今のホストファミリーはとっても楽しいところで、ママは優しくてよくしゃべれる人で、いろいろ教えてくれました。子供三人いて、けんかはほぼ毎日するけど、すぐ仲直りします。まるで本当の兄弟のような生活を送っています。いつも暴走している猫ちゃんもたまに人間みたいな動き方をして、めっちゃ面白いです。わたしを本当の娘のように接してくれ、この家で幸せを感じて、愛されているなぁと思っています。自然に人にもやさしくすることができました。
「すごい」っていう言葉もよくホストとか友達に言われています。自分ではなんてないことと思っていることでも、周りの人は「すごーい」と褒められたり、驚いたりするので、そのときわたしはとっても気分がいいです。自分の努力をわかってくれる人がいるので、本当にうれしいです。
今までは、いろいろ余計なことを考えて、かってに不幸と思っていたわたしはまだまだ子供だなと思っています。勉強は今のわたしにとってはやらなければならないことであり、責任ともいえます。それをクリアーしてこそ、自分のやりたいことができます。お母さんもわたしが自立してほしいと思うからこそ、熱心にわたしに言うのだなと今になってわかるような気がします。
いろいろ、心配かけて本当にごめんね、お母さん。

「もし…」

「もしわたしが日本へ来なかったら、今どんな生活を送っているのかな？」
「もし今のホストファミリーじゃなかったらどんな日本での生活になるかな？」
「もしほかの子と友達になっても、今のわたしは幸せになっているかな？」
みたいな想像をします。
でも、わたしにとって、今ある家族や友達だからこそ、こんなに幸せを感じることできます！今の生活を本当に大切にしたいです。「あと一ヶ月しかないやん、うち絶対泣くで」と友達にいわれることが最近多くなってきて、友達のストレートな気持ちが伝わり、とってもうれしく思う反面、もうすぐお別れかと思うと寂しい気持ちになります。

苦しい時期があったからこそ、今の幸せを心から感じることができます。「あきらめたら、そこで試合終了ですよ。」今のわたし、自信を持って、逃げずに前へ進んで行きたいと思います。
元気いっぱい！やる気いっぱい！やりたいこと目指せ！今でしょ！（///▽///）
明日もいい一日になれることを信じて頑張ります。

日本から旅立ちます。
出来上がった…　新しいわたし。

個人の思い出と留学生についての考え

QIN Ruiting
敦賀気比高等学校／天津外国語学院附属外国語学校
秦　瑞廷

光陰矢の如し、1年間の留学生活はこれで終わります。16歳の僕にとってこんな留学の機会があって、異文化の人々と交わって、視野を広げて、絶対に人生の財宝になると思います。今では一年前のビデオをみると、みなさんの恥ずかしそうな顔と慎重な言動はちょっと可笑しいなと思います、今の堂々とした様子とやはり違います。これは一年間の成長です。

以前の月例報告に「どんなとき故郷が懐かしいと思いますか。」という質問がありました。僕の答えは「他人といっしょに笑えないとき」です。続いて思い出は去年の九月に返ります。学校でみんなの熱心さに感動しましたけど、もし誰か僕に冗談を言ったら、みなさんも爆笑しますけど、僕だけ意味が納得いかなくて、ちょっと苦しい立場でありました。最初の生活はこのように笑いが理解できなくてちょっと寂しい暮らしでした。

でも時間がどんどん流れて、僕が気づいていない間いろいろなことが変わりました。ある日、仲がいい友達といたずらしました。ある日、みなさんと腹が痛くなるほど笑いました。この間に僕もみなさんの仲間になって、距離感がなくなりました。その上に、先生たちも超熱心に助けてくださいました。友達といっしょにBBQにいったり、花見にいったり、先生たちとキャンプに行ったり、けっこう潤った生活を過ごしました。

楽しい時間が経つのがほんとうに速かったです。もうそろそろ帰国します。僕がずっと考えた問題も答案がありました。「留学生の意義はなんですか」という問題です。

実は去年日本に来る前に、日中関係はいくつかの障害を受けましたので、日本に行ったら悪い目に遭わないかとちょっと心配しました。こんな不安感を持って日本に来ました。でもここのクラスメートと先生たちもできるだけ敏感な話題を避けて、和やかな話し合いをしました。今も自分のこの考えについてごめんなさいと言いたいです。ここで自分の目で見た、自分の耳で聞いた日本を感じて、中国と日本はやはりお互いに誤解と偏見があると思います。留学生を通じて、若い世代がお互いに交流して、理解しあって、結果誤解と偏見を解けるでしょう。これはわれら留学生の意義です。

この世界はいずれわれら若い世代が作るものになります。これから、われら若い世代から誤解と偏見を除いて、日中両国の未来も明るく向かっていくだろう。僕の場合、帰国してから日本で経験したことを他人に伝えて、誤解は少しずつも小さくなると思います。

最後に、国際交流基金、敦賀気比高校、ホストファミリーと全部僕に助けてくれた人たちにもう一度感謝したいと思います。みんなの健やかな笑顔は特に一生忘れないです。

日本での留学生活

HUANG Liwei 松江市立女子高等学校／天津外国語学院附属外国語学校
黄　麗薇

去年の今頃、私はまだ両親に頼り、何も心配しなくて暮らしていました。でも今私も自分で日本で一年留学し、何も自分でできるようになってきた。もし、もう一回日本に来るチャンスがあれば、私は絶対来ます。

日本への飛行機に乗った瞬間、もう振り返すことができないということだ。友達と家族と離れたくなくても、一人で一年頑張るしかありません。日本の空気もきれいだし、緑も多いし、日本の空のような青い空も見たことがありません。日本のすべても私を引きつけていますが、困ることもすぐ出てきました、私は日本人が話している日本語がわかりません。このままなら、日本で生活できないじゃありませんか？すごく心配していました。

この心配を持って、島根に来ました。一番目のホストファミリはお母さん一人しかいません。来る前に、二人の生活は寂しいかなと思った。でも、お母さんは面白く、元気な人で、毎日とても楽しく過ごしました。お母さんもいろんな旅行に連れてくれて、わたしは沢山いい経験しました。分からないことがあれば、お母さんも熱心に説明してくれて、いっぱい甘やかしてくれた。

学校は女子高校で、みんな可愛くて、やさしいです。担任の先生も可愛い人で、沢山手伝ってくれました。私も時々国際観光クラスの生徒と一緒に島根県の有名なところへ見学しに行きます、これで自分が留学するところの歴史や文化などを理解します。みんなも積極的にしゃべってくれて、とても楽しかったです。

4月ホームステイ先が変わりました、今度のお家は大家族で、みんな優しくて、毎日にぎやかで楽しいです。お父さんはお酒を飲むのがすきです。酔っ払うときはいつも私と沢山喋っていて、本当に面白い人です。お母さんの料理がすごく美味しいです。そして今はお母さんと銭太鼓を習っています。

去年、中国と日本は政治問題で関係悪くなりました。私も来る前に安全問題に心配しましたが、日本で出会ったみんなも優しくて、困ったら手伝ってくれます。一番印象残ったことは大阪でお母さんと日本女性の会を参加するとき、私はみんなの前で「私は中国の留学生です。日本と仲良くして行きたいです」と言いました。みんなも私と握手して、仲良くしてねと言った。これで日本人は平和が好きで、中国と仲良くしたいことが分かりました。だから、私も帰ってから、日本はいい国だよと中国人に伝えたいです。

日本に来てから、たくさん体験しました。楽しいのもあれば、つらいのもある。こんな沢山体験したから、私たちは強くなりました。日本語も上手になりました、初めの心配もなくなった。そして、日本はどんな国か、自分で見た、感じました。本当に来てよかったと思います。

最後、ホームステイの人や学校の先生やクラスメートや日本でお世話になった皆さん、どうもありがとうございます。

新たな青春と向き合う

HU Yue
埼玉県立蕨高等学校／石家荘市外国語学校
胡　玥

日本に留学に来ると決まったのは、高校入試まであと二週間のことでした。

その時、私は受験に向かって一生懸命頑張って勉強していました。入試の結果が上位で、国内の進学は順調に行っていました。入試の結果をもらった時、私は、初めて「青春」を感じました。昔の私が取れない点数を取って、夢の中でしか見たことのない上位に立って、こんな「できないことができた」というううれしさは、まさに青春そのものだと想います。

そして、二ヶ月後、私は成田空港につきました。その時、私は、これからの一年間こそゼロから頑張ると心のなかに決意しました。周りには馴染んだ友たちがいなくて、全く見たことがない景色で、人間を安心させる母国語をしゃべるチャンスもめったにありません。それでも、振り向くことはだめ、と思いながら、やってきました。

まずは友だちを作ることでした。蕨高校に来た初めの日は文化祭で、私も二日目にあちこち回りました。クラスの人に話しかけたり、できるだけ手伝ったり、いろんなお店やゲームやっているクラスに行って、部活の発表を見て、とても楽しかったです。終わった時、携帯に今日できたばかりの友たちのメールがどんどん来て、本当に嬉しかったです。

そして、部活も決めました。「日本の高校といえば部活」というのは、結構知られている事で、こんなに頑張っているのは思いませんでした。文化祭のダンス部の発表を見て、そのかっこよさに憧れたからダンス部に入って、全くの初心者から練習してきました。今も、ダンスはうまくとは言えないけれども、ダンスは楽しいと言えます。友たちと頑張って練習して、もっとかっこよくダンスができるために、積極的によく分からないところを教わって、何回も何回も諦めなくフリを練習するのは、ほんとに疲れるけど、とても楽しいと思います。なぜかというと、やっぱり友たちがいるからです。実に今も、よく筋肉痛とかで、「部活に行きたくない」と弱音を吐くこともよくありますが、基礎練の音楽が始まったら、「やっぱり来てよかった」と思います。自分の好きなことを、好きな友たちといっしょにやることこそ、「部活」の楽しさだと思います。でも、5月にダンス部の文化祭の準備が始まったため、仕方なくやめました。その後私は漫画研究部や、英語部でも友たちを作って、茶道部はずっと続けてきました。とても良い体験でした！

日本に来て、日本特色のことをやらないのは惜しいから、それからすぐ、茶道部を見学して、この部活に入りました。お道具の名前や、お点前を覚えるのは大変でしたけど、顧問の先生にひとつひとつ聞いて、やっと全部覚えました。今は薄いお茶を作る「平点前」をやっていて、できなかったお点前がだんだん身につけています。

部活だけではなく、勉強もいろいろ乗り越えて頑張ってきました。日本の教科は中国のより少ないけど、やはり、がっつり勉強してますね。丸暗記の苦手な私は、最初の二ヶ月一生懸命各教科の勉強のやり方を探しました。中学校の基礎があって、理系科目は大体うまく行っていますけど、文系科目の対応は辛かったです。中間テスト1の時、先生に「受験科目はどうしますか」と聞かれて、いろいろ考えた後、全部受けると決めました。なぜかというと、自分の力でどれほどできるということを確かめたいです。国語はぜんぜん馴染んでいないけど、先生から問題集とかもらいまして、試験前、国語に専念して勉強しました。点数はぐちゃぐちゃで、平均点数より十点ほど低かったです。でも、この経験があって、私は勉強のコツを見つけて、今の国語はすでにクラスの友たちと同じぐらいの点数を取れるようになりました。臆病な自分がこれだけの成果が取れて、とても嬉しくて満足しています。

日本語という外国語の勉強も、日本語学校「くすのき」と、わざわざ蕨高校に来る下坂先生と高柳先生に教わっています。蕨高校の図書館もよく利用しています。学生向きで、私も大好きなミステリー小説やライトノベルがたくさん入っていて、面白い本をいっぱい読ませてくれました。スピードは、最初の二週間一冊の文庫から、今の二日間一冊の文庫まで上がってきて、楽しい勉強をやりました。

それから、蕨高校で、私は初めてした事がたくさんありました。球技大会や生け花など、一つ一つとても楽しい思い出です。私はこの学校で、この雰囲気の中で、こんなに前にはできないことができて、青春をたっぷり味わっています。これからももっと頑張っていきたい、もっと日本を知りたい、そして私の祖国としての中国の美しさを日本のみなさんに伝えたいです。この近いけど、お互いに知り合っていない二つの国を、もっと結びたいです。この一年間の高校生活は、一生忘れない経験にもなると思います。

感じたこと、言いたいこと

XU Xingzi

神村学園高等部／太原市外国語学校
徐　幸子

〈“や、か、ぜ”＋頑張る－諦める＝成功〉

日本の体育の授業は私にとって、とても辛かったです。走ることだけではなく、バレーボールやバスケットボールや、サッカーなど、沢山の競技があります。初めてバレーをやってみましたが、失敗しました。また、皆の上手な姿を見て、私はやる気をなくなってしまいました。どうして私だけできないのと思いました。友達は私のがっかりした顔を見て、私に、「大丈夫。やればできる。必ずできる、絶対できる。」と励ましてくれました。もちろんすぐ上手になるわけではありませんが、「やかぜ」という話を信じて、一所懸命練習して、だんだん上手くなってきました。

私は弓道部に入りました。弓道の練習のおかげで、集中力や忍耐力が上がりました。怪我した時や的に当らなかった時はとても辛かったですが、私は諦めないで頑張って続けていました。一年間に大会は５回出ました。日本人らしく良かったり悪かったりさまざまな結果を出ました。本当にこの日本しかない競技が大好きです。

日本にいる間に、チャレンジしたいという気持ちを持って、諦めないで、ずっと頑張ることを学びました。私にとって、これは成功だと思います。

〈友情＊行事＝楽しい学校生活〉

日本の学校と中国の学校の違うところは、日本の学校にいろいろな行事があることです。私は体育祭でダンスを踊りました。文化祭でペットボトル飲料を売ったりお化け屋敷に行ったりしました。音楽祭で同級生を一緒に「ハレルヤ」を歌いました。学生たちの綺麗な声と吹奏楽部のすばらしい伴奏と相まって、まるで立派なコンサートのようです。感動させられました。吹上浜でサンドクラフトをやったのが一番楽しかった砂遊びです。ソフトボール部の皆が努力したおかげで、全校応援にも行きました

たったの一年間ですが、作った楽しさは数えることができません。でも、どんな記憶の中にも、彼女たちはずっといます。彼女たちは私の友達です。親と離れて、一人で外国に来て、私は全然寂しくなかったです。友達がいれば、いつでも、どこでも、暖かく感じられます。留学のため、友情の大切さは深く分かるようになりました。

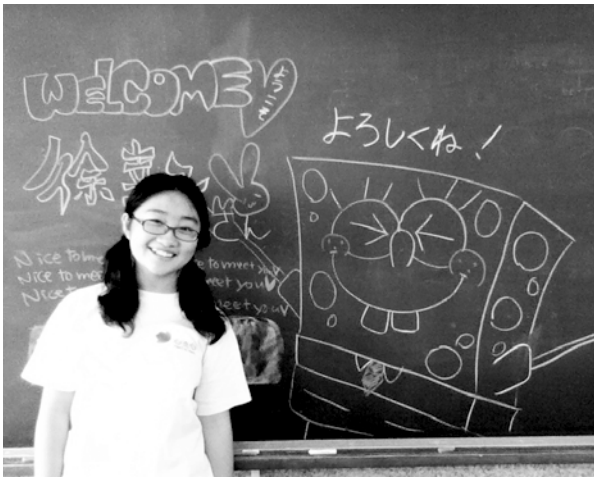
〈心連心〉

「心連心：中国高校生長期招へい事業」に参加できて、本当に良かったと思います。日本語が上手くなって、日本人の生活を体験できただけではなく、一番大切なのは、日本で、沢山の日本人と知り合って、交流して、沢山の思い出を一緒に作ったことです。隠れた歴史問題はずっと日中両国が困っていることです。しかし、日本に留学に来て、中国のことが好きな日本人がいっぱいいることが分かりました。彼らは、私と同じように日中関係が良くなると願っています。われわれ中国の留学生はみんなそれぞれの力を尽くしていました。

私は学校でクラスメートや先生方に中国語を教えていました。皆が「二ーハォ」と私にあいさつしてくれた時、中国語で自己紹介できた時、私はとても嬉しかったです。言葉が違っても、国籍が違っても、皆の心はいっしょです。お互いに友達になりたいです。これは心連心ですね。私は日本と中国ときっととても関係がいい隣国になれると信じています。

〈ありがとう、さようなら〉

この一年間はすばらしいものでした。いろいろな経験させていただいた皆さんに心から深く感謝いたします。いろいろお世話になり、誠にありがとうございます。いろいろ迷惑かけて、すみませんでした。　皆さん、さようなら、私はきっと日本に帰ってきて、また皆と会いたいです。行ってきます。



世界は広い、心を広く

YANG Zan

大東文化大学第一高等学校／太原市外国語学校
楊　賛

気づかないうちに、11ヶ月間の留学はもうすぐ終わります。時間経つのが早いですね。

東京にいて、一年間ずっと同じ家でホームステイしていた自分がとてもラッキーだと思います。ホストファミリーがみんな優しくて親切な人で、私のことを娘、妹だと思ってくれいるようで、本当にうれしく思います。お父さんがたくさんのことを教えてくれたり、お母さんのおいしい料理を食べたり、休日に家族みんなでどこかに出かけたり、クリスマスや誰かの誕生日の時、みんな集まってパーティーをやったりして、とても幸せな毎日を過ごしてきました。この家での生活を通して、私は家族団らんの楽しさと大切さが分かりました。

学校に行くことは毎日の楽しみでした。クラスメートだけでなく、他の学年の人や留学生たちともすっかり友達になりました。みんなとこんなに仲良くなったのは正直に意外でした。一緒に勉強したり、しゃべったり、騒いだり、遊びに行ったりして、思い切って笑ったり、泣いたりすることもできます。クラスでは、お互いに支えて、勉強も部活も学校行事も一生懸命頑張っている、前向きの雰囲気がとても好きです。先生もみんなと友達のように気楽に話しかけることができ、授業は時々難しかったですが、とてもやりがいがありました。部活については、私は去年の10月に大東一高のバドミントン部に入りましたが、外国人だし、下手だし、友達2人しかいませんでした。今年の初めに、一人が帰国して、もう一人が部活やめて、私は結局一人になってしまいました。だれも話かけてくれなくて、みんながわいわい騒いでいる時、とても寂しくて辛かったです。自分がもう限界で、それ以上部活での寂しさを我慢できないと思っている時、先生や友達に、部活をやめたいと言っていましたが、「部活をやめるな、やめたら俺はお前のことを許さないからなぁ！」「もうちょっと頑張ってみれば？でも、本当に辛かったら無理しないでね！」……といろいろ言われました。冷静に考えたら、もっとうまくなるために、自習練したのか？勇気を出して、積極的にみんなに話しかけたのか？など、自分の努力がまだまだ足りないと気づきました。その後、とても緊張しながら、冷たく見える人に話しかけるとか、うまい人と打つとか、自分の部屋で素振りを練習するとか、いろいろと工夫しました。最後の一ヶ月ぐらいは、やっとみんなと仲良しになって、部活も楽しめるようになりました。本当によかったと思います。いつか他の部員のように上手に打てるようになりたいですね！

中国にいた時、勉強で忙しくて、休日はほとんど家に引きこもっていましたが、せっかく東京に来たので、この一年間で観光として、あちこち行ったりしていました。自分で調べて計画を立てて、迷ったり失敗したりすることもありましたが、それは珍しい経験となり、勉強になったと思います。「一人の旅」で、普通の道を歩いただけでも、初めて気づいたことがあったとか、だれにもじゃまされることなく、自分ひとりの時間でいろいろなことを考えていたとか……自分でさえよく分からない感動も時々ありました。

留学するのを決めた時から今までの一年間を振り返って、まるで夢のようです。ドキドキしながらみんなの前で自己紹介をする自分、家族や友達と一緒に大笑いする自分、部活でうまく行かなくて泣いている自分、頑張っている自分……目を閉じると、すぐに頭の中に浮かんできて、昨日のことのように一つ一つはっきり覚えています。この一年間、私は笑ったり、泣いたり、悩んだりしましたが、後悔する気持ちは一回もなかったです。中国の友達より一年間遅れましたが、私はここでしか会えない人と家族、友達になって、ここでしかできないことを経験しました。辛い時、そばにいて支えてくれたのは日本の家族、友達、先生でした。どこにいても、自分は一人ではないことを気づきました。それに、いつでも、先に自分の心を開かないと、先に自ら頑張らないと、いくら悩んでも実際に行動しなければ何も始まらないことを分かりました。自分が成長したような気がします。やはり、自分の国を一回出ないと、世界の広さが分からないし、心を広げることもできないと思います。人生短いので、時々遠回りして、違う風景を見るのもいいのではないでしょうか。

みなさん、一年間お世話になりました！心から感謝しています！東京は私の二つ目の故郷のようで、ここでできた絆は、一生忘れられません！帰国した後も、この一年間で学んだことを生かして、自分のためにも、日中交流のためにも、頑張っていきたいと思います！

出会いという奇跡

ZHOU Jieru

光ヶ丘女子高等学校／太原市外国語学校
周　潔如

「自分らしい花でいいから、みんなのぬくもり受け止めて、このひとときを抱きしめて、あの空に夢を咲かそう。」

初めてこの「夢を咲かそう」という歌を聞いたのは、去年九月の始業式でした。全校の先生と生徒のきれいな歌声に感動させられました。その時は「こんなきれいな歌声がある光ヶ丘は、きっと素晴らしい学校だと思いました。

そんな思いを持って、この光ヶ丘女子高校での一年の留学生活を始めました。

最初は初めてすることが多くて、大変でした。初めて教室に入った時の気持ちは今でもよく覚えています。その楽しみしていますが、怖くて逃げたいという気持ちを持っていた私がすごく昔のことみたいです。そして、初めてみんなとお弁当を食べること、初めて部活へ行くとこ、そのたくさんの初めては、まわりのみなさんがやさしくしてくれたからこそ、心強く頑張れました。

この一年間は、私にとって大事な宝物だと思います。今振り返ってみると、何もわからず、慌ててみんなについていけるように頑張っていた去年の私から、「日本人みたいだ」と言われている今のわたしに成長することが出来ました。日本語、この単純な外国語だけではなく、日本の文化、慣習、それに、感謝する気持ち、人と人との出会いを大事にして過ごすことの大切さも学ぶことができました。

何年かまえに本でこういう話を読んだことがあります。「人と人との毎回の出会いは奇跡だ。」とても素敵と思っていて、ずっと覚えています。でも、その本当の意味が分かるようになってきたのはこの一年です。

中国での十六年間はずっと同じ町に住んでいて、引っ越しなどもないので、卒業しても、友達に会うのは簡単でふつうなことです。そういう狭い世界出過ごしていた私は、日本へ来てから初めて考えました。こんなに広い世界で、この六十億もいる人の海で、誰かと出会って、そして友達になる確率はどんなに少ないでしょうか。まるで奇跡が起こっているようです。それに、今自分としゃべったり、遊んだりしている人たちは、いつの間に地球の裏側へ行っちゃうかもしれません、もう二度と会えないかもしれません。ですから、一期一会の心を持って、今傍にいる人との出会いを大切にしなければなりません。

「心がすれ違っても、いろんな壁があっても、みんなどこかに、やさしさがある、きっと笑顔があるはず。」ですから、たくさんの大変なことにあっても、信じれば、きっとその笑顔をみつけることが出来ます。なので、奇跡のような出会いを大切にし、今の瞬間を大切にし、前向きに進みたいです、それで、きっと一生の友達も出来て、夢も咲かせます。

終わらない旅

ZHU Xiaoming

広島市立舟入高等学校／済南外国語学校
祝　暁明

来週でいよいよ十七歳になります。十六歳はほとんど日本で過ごしました。この間先生から聞いて初めて気づきました、「この中のほとんどの人がもう青春期の末を迎えるよ」と。

六月に入って、ある日いきなり大人になった気がしました。なぜか知りませんが、私が確かにもう大人になったという感じを覚えました。背も伸びたし、髪も長く伸びました。性格も前よりもっと明るくなりました。最初の自己紹介する時に何回も言った通り、「ぎょうめい」というのは「あかつきにあかるい」の意味です。

正直私はあまり振り返ることが上手じゃありません。自分の日頃の成長が気づいていないかもしれないですが、最近ふと感じたことがいくつかあります。

先週ある日の放課後に友達と二人で街中に遊びに行きました。前挨拶しかほとんどかかわったことのない友達ですが、あの日いろいろ話しました。そんなに話ができてよかったと思いながらもちょっと悔しいと思いました。もっとみんなとこうやってゆっくり話すチャンスがあればよかったのに、と。とは言っても、もういつの間かみんなとこんなに多くの思い出ができたことに気づきました。

私が一年九組に来た時からこの一年間、みんなの成長もずっと見てきて、一緒に一年生の道を歩んできました。去年の体育祭の写真を見た時も懐かしく感じました。常にテンションが高くて、いつでも朗らかな笑い声が聞こえる広島市立舟入高等学校国際コースに来て本当によかったと思います。先生の言ったとおり、国際コースは出会いと別れの多い所です。いろいろな留学生とも、檜垣先生とも、みんなこうやって別れを経て、出会いをもっと大事にしていくでしょう。

忘れられないシーンがあります。去年の冬、ある日の帰りに友達三人と横川駅で別れて、急いでホームに上ったら、向こう側のホームにいる三人がこちらに向けて笑いながら手を振って、だんだん動いていく電車の中で窓から見えた向こう側の笑顔が素敵でした。些細なことですが幸せでした。最近なんとなく時間が経つのが早くなった気がします。「一年間では本当に足りないよね」とたまに思ってしまいます。二年十組の子たちの素敵な笑顔もこれから私を支えてくれるものになるでしょう。

夏の広島が大好きです。この間市電で平和公園前を通った時に思いました。ここに一年間住んでいても、私はまだこの町がよく分かりません。何回も通っていた道だって通るたびにまた気持ちが変わります。町の風景というよりも、あの時誰かと一緒にあそこを通った記憶が鮮やかになるでしょう。一人で何度も自転車で通った山道、五日市町から横川まで電車の中で見ていた景色、また舟入高校までいつも友達と話しながら過ごした毎朝の二十分間、つらいと思っていた通学にもいつの間にか慣れてきて、自分だけの掛け替えのない思い出になってきました。部活の帰りに一生懸命走った後の喘ぎも、バスを逃した後のため息も、一人で駅で待ち焦がれていた寒い冬の夜も、みんなここでしかできない経験となって、私の十六歳になりました。

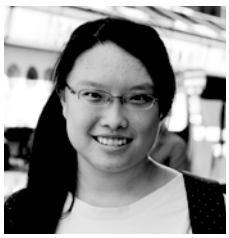
この中で一番よかったと思うことは優しい家族に出会えたことです。俵田家で過ごした四ヶ月の間に日本の生活に慣れて、いろいろ教えてもらいました。K－POPの大好きな優美とお姉さん、ゴルフの大好きなお父さんとお母さん、みんなかわいい人で、常に楽しかったです。一月に引越しして、島尾家に来て三人生活で、前と大分雰囲気が変わりましたがお母さんも愛理も面白い人でとても楽しい日常を送ってきました。春休みに三人で熊本に行って、行きたかった神社までにも連れてもらいました。地図にも載っていない所まで辿り着いた喜びはなかなか忘れられません。

いつも優しくて、何でも熱心に教えてくれた先生たち、友達と家族との出会いは何よりも素晴らしいことだと思います。この絆を大事にしようと思っています。

三学期の時、美術の福長先生の話が覚えています。「こういう外国で勉強するチャンスがなかなか珍しいですが、外国の文化を学ぶとともに、自分の個性もだんだん見つけていく。」そうです。こうやって新しいことをいろいろ受け入れながら、私はそれらを学んで成長しました。

旅みたいに風景が変わっていって、出会いと別れを繰りかえし、別れたくないと思いながらもどうしようもなく前を歩んでいきます。けど、出会いには必ず別れが伴います。ただ、みなさんのくれたものがまた私の中の一部分となって、私を支えていきます。この旅だけには終わりがありません。

みなさん、ありがとうございました。



一期一会

GUO Yafei

沖縄県立向陽高等学校／済南外国語学校
郭　雅菲

「光陰矢のごとし」とはこのことです。一年間の日本での留学生活があっという間に終わりに近づいてきました。今回の留学が語学力アップにかなりの助けになったのはもちろんですが、最も有意義だったことは、自分自身の目で日本を実際に見たり心で感じ取ることができたことです。また、「一期一会」という言葉を胸に留めながら、私の留学生活を充実させてくれた先生方や友達ひとりひとりとの出会いにとても成長させてもらいました。

留学前は、私の周りの日本語を学ぶ人たちは日本に対してただ「礼儀正しい」というイメージを持っていました。挨拶をしっかりして、いつでもどこでも謙虚な姿をしていると思っていました。しかし実際に日本に来てみると、単に礼儀正しいだけではないのだと気づくことが出来たのです。礼儀正しいというのは挨拶などだけではなく、自分の立場でできることやすべきことをきちんと認識して、周囲に迷惑をかけないよう行動していることが日本で出会った方々を通して分かりました。ごみをきちんと分別すること、エスカレーターでみんな整然と一列に並ぶことなど、様々な面で日本の方々が礼儀正しい上に相手の気持ちを思いやっていることを表していると感じました。このように本当の意味での日本人の礼儀正しさを発見できたことは、一度しか会えなかった方たちも含め、私がたくさんの人に出会えたからです。それはとても貴重な体験だと思います。

日本の方々から学んだことはどれほど私の為になったのかは、ここですべて書ききれません。そして私も中国人として、留学生としての役割を果たすことができました。日本で暮らすうちに、日本の方々は中国に対して知らないことや勘違いなどもたくさんあることに気づき、たとえそれが一生に一度の出会いだとしても、せっかくのチャンスを利用して、本当の中国を伝えようと努力しました。中国語の授業や中国語スピーチコンテストの練習の手伝いなどをきっかけに、中国語の発音を教えるだけではなく、中国文化や現状を伝えることができました。中国の祝祭日の過ごし方を紹介したり、実際に中国の食べ物をみんなと一緒に食べたりするなど、教科書に載っていないことも楽しんで学んで貰えたと感じています。このような活動を通して、私の日本の高校の友達は中国についてのことをたくさん理解できたようです。「ガヒに会えて中国のイメージが良い方向に変わったな」という言葉を貰ったとき本当に嬉しかったです。これまで日中交流ということは政府と政府の間のことだと思っていました。しかし私が中国について教えているときのみんなの楽しそうな顔を見ていると、政府の役人ではない一般人の私の力でも、日中交流に貢献できたと感じました。だからこれからの未来を担う日中の若者の間での交流が大切だとも考えます。自分の国の改善点も認めて、間違った認識を正しつつ母国の魅力や文化を世界の人々に伝えるチャンスは誰にでもあるわけではありません。私はそのことに気づいていたからこそ、ひとつひとつの出会いを大事にして、積極的に交流しようと心がけました。

日本・沖縄の青い海と空に白い雲と砂、もうすぐこの美しい景色にもお別れです。最後になりましたが、留学期間中様々な面で私をサポートして下さった方々にたくさんの感謝の気持ちを伝えます。日中交流センター方々や向陽高校の皆さんのおかげで、悔いを残すことなく一生忘れられない素晴らしい思い出を作ることが出来ました。これからも「一期一会」の気持ちを大切にし、日本文化の中で学び得た知識と語学力をしっかり活かして、将来に向けて頑張っていきます。

一年の長さ

HE Lu

奈良市立一条高等学校／済南外国語学校
何　璐

この作文を書くとき、クラスメート達は今年の文化祭のことについて討論しています。ふと思いついたのは、去年九月のことです。初めて登校のした日に、クラスのみんなは文化祭で披露する劇のために頑張っていました。少し照れくさい私は、手伝いたいけどみんなの忙しそうな姿を見て、邪魔にならないのかと心配していました。その不安は続きませんでした。隣の子はにっこりして、「一緒に小道具を作ろう」って誘ってくれました。

私たちのストーリーは、その時から始まった。

文化祭が終ったあと、普通の学校生活に戻って、私のことも普通に受け入れました。同じ授業を受けたり、一緒にお弁当を食べたり、休みの時間にしゃべったりしました。淡いけど、暖かい気持ちを伝えてくれました。もちろん、私はピンチに落ちたこともあります。昔からスポーツが苦手な私にとっては、日本の体育の授業が厳しかったです。マット運動もちゃんとできないし、なにかのボールがこっちに来たらすぐ逃げたくなりました。しかし、体育大会のときは全員参加しなければなりませんでした。一人で悩んだ私を助けてくれたのは友達でした。「大丈夫、思いっきりやればできるよ」って言って、私にバレーボールのテクニックを教えてくれました。結局優勝できませんでしたが、友達っていうものが強く感じられました。

十月に英語クラブに入って、違う学級の友達もできました。みんなとたくさん喋って、いろいろなところへ行きました。一緒に行った奈良公園、英語で外国人をインタビューした緊張感とその後鹿と遊んだ嬉しさ、まだ覚えていますよ。一緒に登った大阪城、美しい眺めを今も時々思い出します。英語が難しいですけど、みんなと一緒に頑張ったことはほんとに素晴らしいと思います。よくこの部活には変人ばかりいるって冗談を言ってますけど、みんなが大好きです。ですから、私はたまに変なことを言ったり、いたずらをしたりしました。変な話を分かってくれてありがとう。これからもどんどん仲良くしていきましょう。そして、別れてもいつか会いましょう。

ずっと支えてくれたホストファミリーの方々にも感謝いっぱいです。お母さんが作ってくださったお弁当がいつもほかの人が妬むほど美味しいです。それに、お母さんはずっとボランティア活動をされていて、本当の思いやりを教えてくださりました。私がよりいい大人になるためにアドバイスをしてくださいました。今の私はまだまだ不器用ですけど、これからもこのことを忘れずに一所懸命頑張ります。お父さんはすごく優しい人で、いつも励ましてくださって、いろいろなところへ連れて行ってくれました。福ちゃんとお父さんと三人で行く散歩が毎日の日常ですけど、毎日の幸せです。一年間、本当にありがとうございました。

学校の先生もいろいろ考えてくださって、ありがとうございました。東京まで迎えに来てくださって、教科書を準備してくださって、分かりやすい言葉で説明してくださいました。遠足や修学旅行も行かせていただきました。今までの充実な生活を私に送らせていただけているのは、たくさんの人々が努力や協力してくださっていることを私は知っています。そして、最後まで感謝の気持ちを持って頑張ります。

大切な思い

DU Tianyou

立命館慶祥中学校・高等学校／洛陽外国語学校
杜　天佑

昨年の夏、私はここに来た、夢を持って、期待と不安の気持ちの中で、一年間の留学生活が始まった。そして、今年の夏、私は荷物を備えて、感謝と別れへの悲しみの中、帰国の途に踏み入れた。過ぎ去った一年間の時、残った大切な思い、もらった精神の富。この一年間でいろいろ経験したので、私にとってとても大切なものだ。そして、これからも忘れないだろう。

忘れられない。弁論部での日々。

弁論部と聞いたら地味に思われがちだが、ゲームをしたり、部員の意見を聞いたりするのはとても楽しかった。運動部のように厳しくはないけど、ここでの日々は決して楽だとは言えなかった。大会の前にある部活は、弁論の指摘を何度も繰り返すことだった。初めて聞く考えを自分のものにしてコメントをする。確かにそんなに難しいことではない。しかし、自分の考えを日本語にして、相手に伝えるのは難しいことだ。最初、私は考えを何も言えなかった。そして、ほかの部員が真面目な態度で原稿の指摘を捜し、一人の指摘する内容が二十分を超えることもあった。その真面目な態度に、私は感心した。あれを見たから、自分もそうなりたいと思う。「高校生は専門な知識は持ってないけれど、大事なのは自分の声を出す」。これは弁論部の先生の言葉だ。大事なのは自分の考えや表現力を鍛え上げることだ。それを一つの教訓として、これからも歩んで行きたい。

忘れられない、湯本家。

私は寮生なので、普通の日本の家庭には詳しくなかった。そんな中、初めに日本人の生活に近づくのは冬休みのホームステイした湯本さんの家でのことだった。最初はやっと慣れた寮生活から離れたくなく、ホームステイはうまく行けるかどうか心配だった。しかし、最後は寮に帰りたくないくらいそこでも生活を楽しんだ。

知識が豊富、何でもわかるお父さんは料理も上手で、日本料理をたくさん作ってくれた。そしてお父さんと同じように、お母さんもとても優しい人だった。ある日、食卓で話していると、制服の話になった。私がお母さんに自分の制服が小さいことを伝えると、お母さんは「それはかわいそうね」と困ったように答えた。それから数日が経って、お母さんは私に新しいセーターを買って来てくれた。私は申し訳ないので遠慮しようとしましたが、「いいよいいよ。息子が高校に入ったらどのみち買うんだから一緒よ。天佑くんが帰るときに返してくれたらいいわよ」とお母さんが言ってくれた。その時私はとても感動した。寮に帰る日も、お母さんは私を車で送り、「寮は昼ごはんが出ないから」と言って、お弁当を買ってくれた。その暖かい弁当を受け取った時、もう感動して涙が出そうだった。もうこの家族の一員になったようで、本当に嬉しかった。

忘れられない、私のお世話をしてくださった方々。先生、友達、名前も知らないけど手伝ってくれた人たち。

忘れられない、嬉しかったこと、困ったこと、出会った人々、そしてこの一年間。私はこの思いを持って、帰路につく。この一年間楽しかった。本当にありがとう、日本のみんな。

成長

ZHANG Liqiang

大阪府立夕陽丘高等学校／西安外国語学校
章　李強

中国では、夏は別れの季節である。僕にとって、夏は成長の季節でもある。僕の名前は章李強だ。中学一年生から、日本語を習い始めた。英語より日本語のほうが将来に役立つとは思ってなかった。ただ、ほかの人と違う道で歩いていきた　かった。

今まで後悔したことは一回もないんだ。逆に日本語を選んで良かったと思っている。

2012年8月、北京国際空港で、32名の少年少女がおよそ一年の期待をもって、新たな生活を待っていた。僕らが向かってる未来はどうなるんだ。素晴らしいかも、大変かも、たくさんのチャレンジが待っているかも、素敵な体験ができるかもしれない。飛行機で四時間の沈黙で、十一ヶ月の成長。

みんなと同じく、僕も飛行機のなかで、いろいろ考えた。どんな生活が待っているかと、ドキドキしていた。七月にホームステイ先が送られて来て、自分が大阪に行くことがわかった。大阪に対してはすごく期待していた。どんな人と出会うのか、優しくしてくれるのか、仲良くできるのかなど、多少心配があったが、新生活を考えれば考えるほど興奮してきた。

だけど、生活というものは思う通りにはなかなか行かないのである。どれだけ望みを持っていても、自分で頑張らなければならない。

学校の一ヶ月目はぜんぜんなれなかった。学校では、みんなと話せなかった。もともと明るい僕が、無口になっていた。それは言葉の問題だ。

僕は初めて日本に来るので、自分が学校で学んだ日本文化や習慣の知識はまったく通用しなかった。授業もぜんぜん分からなくて、悲しい気持ちになっていった。

この十一ヶ月は、いい経験になれるのか、意義ある生活を過ごすことができるのか、疑い始めた。

でも周りの人達は僕を励ましてくれた。

学校の先生や日中交流センターの先生たちはずっと僕の相談に乗ってくれて、僕も慣れるように頑張った。時が経つに連れて、僕はだんだんこの生活に慣れてきた。

一年生の時はもっと充実した生活を送れると思っていたが、でも淡々とした生活の中にも幸せなことがたくさんあった。

日本語では「縁」という言葉がある。僕は縁をとても信じている。学校で友達もでき、これが縁だなと思ってきた。

中国人にとって、日本人はとても友好的だというイメージがあるけど、この気持ちは礼儀からきているだと思う。僕は初めて日本人の親友といえる友達と出会った。彼の名前は「KOKI」だ。この名前は僕だけしか呼んでいないんだ。

僕はだんだん学校生活が面白くなってきて、慣れてきた。以前の不安はまったくなくなった。

九月に日本へきた時よりも僕は成長した。

違う生活で、僕はいろいろな苦難に逢ったけど、逃げるのはよくない。立ち向かっていかなければならない。いやな事があるからこそ、幸せなこともある。

残り二ヶ月もないけど、僕は楽しみにしている。新しい友達もできて、今の生活を大切にしたい。

ここの生活が好き、日本の学校が好き、ここで新たな言葉を覚えました。それは「学校生活」ということ。みんなは成績のためだけ勉強しているんじゃなくて、学校で友情、団結、社会規則をも勉強する。一年だけで、色々な勉強になった。小さい恩に感謝すること、細かいところでも謝ることを学んだ。中国でみんなに忘れられたことをここで思い出した。

この11ヶ月は僕にとって一番輝いた青春だと思う。だから今の僕には新しい夢がある。将来、もし子供ができたら、そんな生活を送らせたい。

ここで、日本語の上達だけでなく、今の生活に対して、両親を一番に感謝し、僕を支えてくれた周りの人に感謝し、青春を謳歌したいと思う。

忘れられない人生分の一

XU Jiajie

高知県立高知西高等学校／上海甘泉外国語中学
許　佳傑

この一年間のことを千字に、本当に言い切れないと思います。この作文を準備する時、「あ、こんなこともあったか。」「その時、めっちゃ楽しかったなぁ～。」とか、懐かしくて、複雑な気持ちが湧いてきました。

日本に来て、まず私が感じたことは自動販売機の多さ、ごみ分類の詳しさと日本人のマナーの良さです。それから、学校に行って、文化祭や、ホームマッチや、修学旅行などいろいろな行事を体験しました。その中、私が一番驚いたのは部活動です。中国と違って、毎日朝練もあるし、放課後も遅くまで練習します。みんなの部活にかける熱意に感動しました。もちろん、わたしはこの旅で、日本だけの文化も学びました。お正月の初詣、カラフルな年賀状、さまざまなお祭りがあり、日本文化の魅力をたっぷり感じました。私はまだ二十歳になっていないけど、成人の日に一足先に振袖を着せてもらいました。すごくきれいで、本当にいい経験になりました。この一年間の日本生活を振り返って、初めて体験したこと、強い印象が残ったことがたくさんありました。最初は分からないことがいっぱいあって、たとえばトイレのスリッパを履いたまま部屋中でごろごろするとか、常におかしなことをやってしまいました。でも、そういうことがあるからこそ、この一年間を楽しく過ごすことができました。

帰国の一ヶ月前、私はほかの留学生と、西高校の国際交流推進会の総会で「日本での生活」という報告スピーチをやりました。最後に、ホストファミリーのお母さんに習った土佐弁「私は上海で待ちゆうき、みんな来てよ！」と言ったとたんに、やはりこらえきれず、涙があふれてきました。高知県立高知西高等学校の先生たち、生徒たち、ホストファミリー、それに、ずっと応援してくれた方々、大変お世話になって、ありがとうございました。みんなのおかげで、この一年間は本当にすてきな一年間でした。私はこの一年間のことを絶対に忘れません。

私は日本に来てから、日本に対する見方や、自分の考え方、将来の夢など、非常に変わりました。私は高校を卒業してから、日本の大学に行って、いろいろな勉強をしたいです。これから、日中両国の信頼関係を続けるために、私は少しでも役に立つことができれば、うれしいと思っています。お互いに文化の違いによって、ときどき摩擦が起こりますが、そういうことを乗り越えて、日中友好関係がいつまでも続くことを願っています。

生活はまるで季節のように

ZHUANG Xiaotong

盛岡中央高等学校／南京外国語学校
荘　暁桐

時間の経つのが早いことに、日本に来てもうすぐ一年になります。このほぼ一年の時間を一言で言うとすれば、「春になって行く」一年間ですね。

ここに来た最初の一ヶ月、日本での生活を慣れるために、一生懸命考えました。周りの動きを観察しつつ、自分もそれなりの動きをとりました。しかし日常生活に慣れるのは簡単ですけど、その言葉と文化の差異がもたらした孤独感はどうしても消せなかったです。まだ九月なのに、空気はまるで冬のように冷たく感じました。最初は多分日本語の熟練度のためではないかなあっと思って、ひたすら日本語がうまくなるのを待っていました。

けれども、それは何も変わらなかったです。何が所以かと、自分の中で反省しました。やはり話し掛けるべきだという結論が出ました。その考えを持って、周りの人に話しかけて、みんな優しく返事してくれました。しかしそれまでです。一旦話し掛けないと、また誰も話してくれないようになって、まるで一人ぼっちの渦巻きに落ちて、出られなくなってしまったようです。

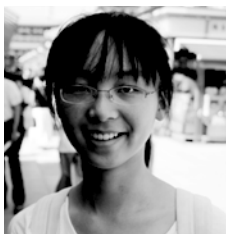
でも私は別に一人でも平気ですから、今思いますと、もしあの転機がなければ、ずっとそのまま絵を描いたり、本を読んだり、日本での一年間ではなく、自分の世界での一年間を送ったでしょう。日本に来て、宿題の山から脳を解放された私はどうも深い考えに落ちやすい。もともと暇なとき考えるのが好きですから、誰も話してくれない一人ぼっちの最中は物事を考える以外は何ができるというのですか。

そのまま人生を、人間を、森羅万象を夢中に考えている中で、自分の中身が感じられるほど成長しました。その成長は単なる知識の積み重ねではなく、物事の見る目が変わりました。根源的へ一歩進みました。今求めているものに対して、何もかも足りない、更に上の段階でやりなおすしかないと思って、今年漫画を一本作ろうという目標を更に腕を磨くように変えました。

そのように、いろんなことを考える頭の中が夏のようなのに対して、生活はまだ冬のままです。

ある日、一緒に遊ばないかと隣の部屋のなつみさんに聞いたら、向こうはあっさりと誘いに乗りました。遊ぶ最中の一言が春の一本目の光のように、「ね、ね、庄ちゃん、暇があったらどんどん誘いに来てね、遊ぶのが大好きけど、みんな忙しくて、誘いに乗らないんだよ！」と、私の生活が春に入りました。

それから、日本語がうまくなったためか、ずっと話しかけてきたためか、みんなと仲良くなって、今、軽音楽部の人たちとライブを見たり、美術部の後輩たちを教えたり、ホームステイを経験したりして、充実なことがいっぱいで、まさに今の季節！心も生活も夏です！



0から0まで

LIU Jiayan

三重高等学校／南京外国語学校
劉　佳妍

楕円から円まで、あなたは太った？そんな痛い事実を突きつけられたら、ほんとに泣きそうだね。実は、この変わった題名の正しい読み方は〈ゼロから円まで〉だ。それはまさに私のこの一年間を描く最も生き生きしたたとえだと思う。

ゼロはつまり原点のことだ。北京へ面接を受けに行く前に、十五歳の誕生日を迎えた。十五年というのはほんとうにあっという間だが、十五年をかかって形作ってきた愛情と絆の網はいかにも柔らかくて心地よかった。だが、成田空港で飛行機を降りたとたん、なんとなく、何かにさようならと言われた気分になった。その網だった。切り断つわけがないが、遠ざかっていた。覚悟の上で来た、と自分に元気づけてみたが、寄り添う網がなくなり、なにもかも原点に戻っている心細さはやはり辛かった。

最初ずっと悩み続けたのは友達のことだった。自分は前から思っていた、友達というのはわざわざ作る必要がないと。どうしてと聞かれても、気が合う人だったら、自然と話し合って仲良くなれるのではないか。どうしてもわからなかったことだったが、その考えは今回なぜか通用できなくなったらしい。ほかの子の日記を見て、たまに羨ましいと思ったこともあった。だれとも友達になれるし、見ず知らず人々だとしてもすぐその中の一員となれるなどは、実にすばらしい才能だ。自分もそういう才能を身につけたらなあとよく思った。本当に、あのはっきり見えないが、手を伸ばすとわかる嫌な壁を破りたかった。しかし、悩みというのはたいしたものだ。悩んで悩んでそのうちにようやくわかった大事のことがあった。それは自分がずっと原点に座っていたことだ、そして、悩みのもとでもあることだ。私はずっと、誰かが話しかけてくれるのを、誘ってくれるのを待っていたから、悩みに囲まれた。みんなの話がわからなかったら聞けばいい、気持ちを伝えたかったら話せばいい、遊びたかったら自分から誘えばいい、簡単な理屈だ！気持ちがそう変わった瞬間、エネルギーいっぱいの日向に浴びたように、とても心強かった。だれでも知っている簡単なことだが、いくら巧妙なコンパスでも、原点から足を伸ばさないと描いたのはしょせん点だ。それとまったく同じように、一人は原点から歩き出さないと何も起こらないのだ。わたしは網のかわりに、みんなとつないでいる大きな、丸い円を描きたいから、勇気を持って、微笑んで歩き出してみた。そうすると、何もかも桜の薄いピンク色に染めたように、温かくて幸せに満ちている。初めて、一緒に帰ろうと話しかけられた場面を思い出すと、今でも笑い出しそうだ。ここに来てほんとうによかった。

友達と遊園地に遊びに行ったとき、あの大きな、ぐるぐると回っている観覧車を見ると、何気なく自分の円のことを思い出した。みんなのおかげで、その円はすこしずつ完全になっていく。そして、観覧車の一つ一つの部屋のように、円をなす一つ一つの点でもみんなの笑顔が写っているからこそ、わたしのひとつしかない宝物となっている。いろいろ乗り越えてそれを描いた自分にもほめてあげます。

よその話だが、自分は日本人と桜が実は似ていると思う。ピンクまたは白の桜はけっして艶やかではない。かれらは静かに咲き、空に舞い飛ぶ。目立たないとはいえ、その美しさは誰が見ても心が揺さぶるほど見ものだ。日本人の謙虚さとやさしさはまさかその通り。そのおかげで、人が素直になれるのだ。一年前の私なら、ぜったいこの文章を書けない、もしくは書きたくないだろう。自分の気持ちをそのまま書くのはやはり恥ずかしいことだ。しかし、いまは言葉を噛みながら書いたのは伝えたいからだ。感謝の気持ちを、そばにいてくれたひとびとに伝えたい、私と同じ悩みを抱いている人に自分から手を伸ばしてみようと伝えたい。

一年をかかって描いた円と、また分かれることになる。星の王子さまの狐は言った、飼い慣らされると、たまに泣かないといけないことがあるんだ。悲しいけれど、その円を心のなかに大切にするから、思い出すときっとうれしいことになる。またゼロから始めないといけないかもしれないが、今度は迷いなく、精一杯で自分の望む円を描きます。

道 程

YAN Chen

京都府立北桑田高等学校／南京外国語学校
厳　辰

銀杏並木を歩きながら、いつの間にこれほど緑が濃くなったのだろうと心の中で思った。振り返れば、もうじき日本に来て一年が経つ。ティーバッグを揺らすと、温かい香りの中に、広がっていく淡い赤色とともにたくさんの思い出が心に浮かんでくる。

― 思いやりの心 ―

思いやりの辞書での解釈は「他人の身の上や立場になって親身に考えること。また、その気持ち」。でも、実生活でいろいろ経験してきて、ちょっと違うように感じる。

「な、これってどういう意味？」プリントの問題を指して、弥苗ちゃんに尋ねてみた。

「それ？それはねぇー」そう言って、シャーペンを持って、自分のノートに書き始めた。

その時気になって聞いてみた。「弥苗って、左利きなの？」

「ううん、右利き。でも、右手で書いたら、しんちゃんが見えないじゃん」そう言って、彼女はまた笑った。

来たばかりの時の会話だった。そのときに感じた。大げさなことではなく、ほんの些細な行為の中に、思いやりが見えたと。

思いやりとは大きな思いで小さなことをすること。これが過ごしてきた一年でわかったこと、そして、これから迎えるたくさんの年月で成し遂げたいことでもある。

― 山国の桜 ―

二番目に書きたいのは山国の桜。山国とは、京都の北部・京北町の古くからの地名。私はこの町に一年間住んだ。京都市内とこの山国をつなぐ周山街道は、まさに京都の田舎の風情だ。四月の花降る里祭りは印象的だった。その日の朝はこぬか雨の中、肩を濡らしつつ、お客様を招いて、お茶をたててもてなした。先生と友達と一緒にいて、寒さの中温かくて心地よいお抹茶を手にして、花を宿す春の息吹を写したお菓子をいただく。その味わいを忘れない。

降り注ぐ花びらの下を歩いて、国語の竹内先生に「日本人はどうしてこんなに桜が好きですか」と尋ねたら、こう答えてくださった。「桜の開花時期はね、短いの。“三日見ぬ間の桜かな”という句もあって、割とね、ぱっと咲いて、ぱっと散っていく桜が好きなの」と。

この自然豊かな地が大好き。そして、この地で過ごした、お茶とお菓子のような苦くて甘い日々も、桜の舞う古都の春とともに心に留める。

― みんながそばにいるから、これからも心強く―

「おはよー。お誕生日おめでとう。テスト期間中やけど16歳。まぁ、なにはともかく、あと2日、テストかんばろー。ほんまにおめでとー」

「ありがとうね。じゃぁ、楽しい冬休みを過ごしてね～」

「あけおめでーす！！昨年はいろいろお世話になりました。今年もよろしく。しんちゃんにとって幸せな1年になりますよーに…」

・・・

受信ボックスがいっぱいになっても、みんなからのメールはどうしても削除したくない。誕生日にもらったプレゼントも、バレンタインデーにもらった友チョコも、新年の祝福も、メールを見ると、その時感じた幸福感が甦る。「人生で最高のもの、最も美しいものは目に見えず、触れることもできません。それは心で感じるものなのです」ヘレンケラーの言葉。そして、「人生で最高のもの、最も美しいもの」を心で感じた。それはみんなの温かい心なのだ。ここでたくさんの友達ができた。みんなと出会えて、友達になって嬉しかった。持久走で諦めようとしている私を励まして、一緒に走ってくれたことも、古文の全くできない私にノートを貸してくれたことも、ちゃんとそのまま心に残っている。みんなの愛に包まれて、ほんとに幸せな一年だ。

私は一人ではない。みんながそばにいるから、どんなときでも悲しまない。みんなが応援してくれるから、どんなことにも負けない。遠く離れても、同じ思いであれば、ずっと友達でいられる。

過ぎていった一年、みんながくれた温かさは、これからの日々をも温めてくれる。これからの道も心強く、歩いていける。

― 感謝 ―

最後に一年間一緒に過ごしてきてくれたみなさんに感謝の気持ちを伝えたい。「ありがとう」と、きちんと言っておきたい。この一年間、いろいろお世話になった。親が隣にいないこの一年間、代わりに付き合ってくれて、私の成長を見守ってくれて本当にありがとう。

どうか皆さんの心に届けてください。今生まれてきたこの感謝の気持ちを。

「僕の前に道はない。僕の後ろに道は出来る」

高村光太郎の「道程」という詩のように、こうやって、私はここまで歩いてきた。これからも長い長い人生という道を歩いていく。しかし、どこまで行っても、この一年が私にとって特別な存在であることは変わらない。みんなと一緒に過ごした日々は私の宝物である。本当にありがとう。最高の思い出を残せた。

掛け替えのないその月日

WANG Danni
鹿児島県立武岡台高等学校／武漢外国語学校
王　丹妮

階段から降りて、Kが自販機に行った。私は乗り場でJRを待っていた。

五月末の午後七時半だった。空の色は濃くてきれいな藍で、まるで海と空が逆転して、今にも海水を大地に零そうとしているように。空気中の湿気が光線を曲げて、目に入った光景は朦朧になっていた。梅雨の時期に入ったからかな。

そこで最近地学の授業で聞いた梅雨の話を思い出した。梅雨にも種類があるとか、北海道には梅雨がないとか。地学が好きだ。中国の高校では地学と言う科目がなかったから、生物と地学どっちを選ぶと聞かれたときにまったくためらわずに地学だと答えて、そうしてよかった、日本に来てよかったと今までずっと思っている。

「ただいま。」Kは帰ってきた。ジュースと一緒に。そしてペットボトルを握っていた手を私に伸ばしながら、「何を考えてるの？」と聞いた。

「Kは今日も地学の授業中で寝てたねって思っている。へへ」と、変な微笑みを浮かべながら言った。ジュースをもらおうとしたその時、Kがいきなり手を引いた。

「じゃああげない。」

「ごめんなさい。」

ジュースを一口もらった。飲みながら、駅のとある看板が目に入った。二人の女子高生が芝生に横になっている写真の下に「仲良し時間」と書いてある。初めて鹿児島に着いたときにも空港で見たことがある気がした。その時はドキドキしていた。これからの生活について、楽しみもあったが、正直に言うと不安のほうが重かったかもしれない。しかし今の自分はもう怖がらない。初対面から親しくなるまでのプロセスが思ったほど難しくないと思った。むしろ知らない人と出会うのが楽しみにしている。

ジュースの冷たさに時間が速やかに過ぎ去ったのを感じた。数ヶ月前に、この場所で、Kと「寒い寒い」とぶつぶつ言っている場面が頭に浮かんできた。寒さを忘れるために一生懸命面白い話をしていた記憶がある。そこで「たーちゃんの存在が違和感がないわ」と言われて、幸せだった。

「おいしかった。ありがとう」と、Kにお礼を言った。

「感謝しやがれ。」

Kの返事が心地よかった。丁寧な挨拶より距離感の近い発言に達成感があったから。

JRが来た。座ってたらKがお母さんからのメールを読みながら、今日の晩御飯はカレーだと言った。いいなと思った。日本に来てからカレーが好きになった。特にお父さんの「満腹になっても食べたい秘伝カレー」が大好きだ。納豆も同じ。納豆が好きになったと言うのは私にとっての大進歩だった。

しばらくの間、二人の間が静かになった。「今日の英語の授業もちょっとびっくりしたね。先生が面白かった」と話しかけたが、返事がなかった。Kがいつの間にか熟睡してしまったらしい。

確かに眠くて辛いーー。毎日勉強が忙しくて夜寝るのが遅くなっても、朝早く起きて自転車からJR、JRからバスに乗る。一時間以上もかけて通学しないといけないのは大変だと思った。最初の頃にこの遠さに文句を言っていた。しかしある日Kが全然遠いと思わないよと言った。自分の意志の弱さを感じた。ホームシックになったとき、部活と勉強がうまく両立できなかったとき、自分を変えずに文句ばかり言っていた。今と同じ窓の外の景色を見たときに列車がそのまま中国の家に走ればいいのにと思った自分が、それから友達とホストファミリーの支えで少しずつ心境を変えて、ここから離れたくない今の自分に変わった。どんな辛いことが会っても頑張ればできると思っている自分に変わった。

ここのすべてが私の成長のきっかけとなっている。それぞれの点をつなぐ人たちーー、K、学校のみんな、先生たち、そして家族…包容してくれてほんとにありがたいと思っている。

列車はそのまま走っていた。風が窓の隙間から潜り込んで、私の感情もその風に乗って大切な人の心まで浮かんで行ければ。

日本生活

ZHOU Jiaming

秋田県立秋田北高等学校／長沙外国語学校
周　嘉鳴

日本に来てから今まで、もうそろそろ十か月を過ごしていた。時間が流れるのは早すぎる、楽しくて、短い。それは、今僕が一番言いたいことである。

2012年8月28日、僕が初めて東京の成田国際空港に着いた。その時の緊張と不安な気持ちが、今もよく覚えている。そして9月1日、僕はこれから1年間に住むことになる、秋田市に着きました。東京のようなにぎやかな都会ではないが、秋田は静かな町だった、そういう町の静かさと人々の優しさが、僕はとても気に入った。

それから、秋田北高校の生徒たちの一員として、僕の学園生活が始まっていた。やはり北高の高校生活は、中国と大変違います。昼休みが短いし、僕が中国にいた頃受けたことない科目も沢山ある。でも古典や現代文とか、僕にとってはとても新鮮な物なんです。そういう授業を楽しみにすると同時に、自分の日本語上手くないことを心配していた。日本に来る前に、日本語を1年しか勉強していない僕には、日常会話だけでも精一杯だ。元々お喋りな僕が、だんだん無口になっていく。それでも、クラスメートたちが相変わらず僕に話をかけてくれていて、親切に僕が知らないことを教えてくれた。そのお陰で、僕が沢山の友達を作って、性格も明るくなって来た。友達と同じ部活に入って、楽しい日々を過ごして来た。

JRCという部活をご存知ですか？ Junior Red Cross、つまり青少年赤十字会という意味です。僕がこの部活に入って、ボランティアとして、友達と色んな活動に参加した。一番印象に残っていたのは、駅前の募金だった。あしなが学生募金、自然災害のせいで、親が亡くなった子供たちのための募金です。毎回参加する時、部員の思いやり、募金に来た人々の優しさがはっきり僕の心に伝わって来た。本当にいい体験だと思って、駅前に連続3時間働き続けたが、疲れたとは全然思いませんでした。

この1年間に、誰に一番礼を言いたいのは、勿論、今までいつもお世話になったホストファミリーのお父さんとお母さんです。お父さんはとても明るくて、前向きな人です。僕と話した時は、いつも笑顔をしていた。お父さんと相談すると、すごく勉強になる。お母さんはとても優しくて、真面目な人です。毎日美味しいお弁当を作ってくれて、僕が間違ったところもはっきり指してくれる。僕はまだ日本生活を慣れていない間に、彼らは僕と話して、知らない知識を教えてくれた。休み中、何回も僕を連れて、秋田の有名な景色を見せてくれました。秋田に来て、お父さんとお母さんの息子になって、本当に嬉しかった。

僕の長い人生にとっては、日本に来た日々は非常に短いかも知れない。だが、お世話になった先生と友達のこと、お父さんとお母さんのこと、そしてこの一年間に自分が得たこと、一生忘れないだろう。最後に、自分の感謝の気持ちをここで皆さんに伝えたい、ありがとうございました！

日本での十ヶ月

CHEN Suyao

富山県立伏木高等学校／成都外国語学校
陳　穌僥

時間が過ぎるのははやいです。日本での十ヶ月の留学生活もいよいよ終わりに迎えるね。この十ヶ月の生活の感想は本当にいろいろあります。最初の全然なれない、ほんまに死にたいから、今の普通の日本人と同じように生活できるようになって、本当にいろいろ体験できました。最初の一ヶ月誰とも話さなかった。ずっと一人でやってきました。一人で泣いたこともいっぱいあるし、いつも絶対こんなところで十ヶ月生きれるわけないともおもった。ひどかったです。だけど我慢してきました。いつも、こう帰ったらほんとうになさけないとおもって、最初選ばれたときすごくたのしかったじゃないかとか、本当に真剣に考えていました。今思ったら、あの時やっぱり俺にとってすごく大事なときでした。あのときから、自分の留学生活が本当に始まったといまはおもいました。もう一度最初日本に来たときの気持ちを思い出し、日本人としゃべり始め、部活もよくいくようになった。

さいしょは全然学校の雰囲気に入らなかった。話題がないとか、単語がいっぱいわからんとか、だけど本当にすごくがんばりました。そして、だんだん学校の生活になれました。いつか覚えてはいないんだけど、もう普通に友達ができて、普通にはなせるようになった。時々わからない単語あるけど、わからんことあるけど、やっぱりがんばって自分から聞けば、教えてくれる。自分が話せば、ほかの人がはなしかけてくれる。がんばればできる。だんだん、同じおしゃれなものがすきなひともあったし、スケボーしている人もいたし、今はもう、本当に学校が好き。毎日の昼休みを楽しみにしている。十ヶ月でひとがかわるよね。最初遊ぶしか知らん、パソコンがあったら、ネットで買い物とか、ゲームしかせん、けどいま、パソコンあっても、やっぱ外で友達と遊ぶほうが楽しいね。いろいろ体験できて、がんばればできるとわかるようになって、もっと自分の将来も考えるようになって、日本人と日本の生活になれるようになって、楽しかったし、つらかったし、なんでもいい思い出になると思う。もう私は日本でのこの十ヶ月のおかげで、最初の都市しか知らんガキから、どんな環境でも、がんばってなれるような大人っぽい人になった。

日本での十ヶ月、ほんとうにたのしかったです。大学でチャンスあったら、絶対日本に戻ってきます。ここに親友いるし、思い出残っているし、俺の成長を見守った大事なところです。この留学のチャンスくれてありがとうございました。これからこの十ヶ月で習ったことを生かし、もっともっとがんばります！！！！！！

15歳に日本での旅

FENG Yukun

岡山県共生高等学校／成都外国語学校
奉　煜坤

去年の九月に岡山県共生高等学校に来て、留学生活が始めました。あっという間に10ヶ月過ごして、あと一ヶ月帰国するようになりました。時間の流れが速くて、生活が充実して、一年間が終わり、16歳になりました。

今でもはっきり覚えています。来たばかりの時の泣きそうな気持ち。都会でずっと生活していましたから、新見に来てこんな田舎で一年間生活するのは無理だと思っていました。新見は3万人しかいない町ですが、外国人が意外に多いです。どうして買い物も不便なところで外国人が来るのか。10ヶ月新見に住んで、感じたのは溢れる人間味です。出かけるとき、知らない人でも笑顔で「こんにちは」と挨拶します。最初は本当に不思議だと思いました。やっぱり田舎で人少なくて、みんな純朴で優しいでしょう。剣道部に入って来て、先生がよく話すのも「剣道部員だったら、大きい声で挨拶せ！」 都会のようなファッションとかはありませんが、こんな人間味があったら、心暖かくなれるでしょう。

マナーについて、上下関係をかなり感じていました。やっぱり若いですから、かなりプレッシャが出てきました。クラスメートはほとんど自分より1歳ぐらい年上で、後輩も5ヶ月だけ年下です。中国より厳しい上下関係も、最初は全然慣れてなかった。先輩と話かけるのが緊張すぎて、敬語とかも上手に使えなかった。「この先輩かっこいいな　けど話かけたくない　怖そう」と思うようになりました。そこから何ヶ月かたって、自分も先輩になってきたとき、なぜみんな厳しい顔するのかやっとわかりました。先輩も後輩と話したいですが、やっぱり先輩は先輩、同級生じゃないから、そういう格好が要ります。「こんにちは　」と挨拶するのも慣れて、挨拶されるのも慣れてきました。先輩も後輩も仲良く出来きるようになりました。

面接のとき考えた目標を思い出しました。ボランテイア、たこ焼き、卓球試合、全部やってしまいました。大阪、由良とか行きたいところも行っていました。今の生活は授業、部活だけです。ゆっくり一ヶ月を楽しむつもりです。これからも取材があって、いい経験になれると思います。

毎回誰かに年を聞かれて、15と答えて、みんな「へー、若いね　15歳なのに外国に来たのか」と言われます。「国と国の交流は若者達からだ」こういう話を聞いたことがあります。16歳までの一年間日本で色々経験しまして、自分の目で本物の日本を感じました。剣道も、新見も印象に残っていました。日中交流の架橋になれるかどうかわかりませんが、これを目標して頑張ります。共生で一年間お世話になった人達、剣道を教えてくださったみんな、日中交流センターの先生達、本当にありがとうございました。

留学生活に教わったこと

MAN Xueyang

横浜市立みなと総合高等学校／成都外国語学校
満　雪陽

私にとって、一年間の留学生活はなんと夢のようでした。楽しかったことも、悲しかったこともいっぱいあって、とても充実した一年間です。

日本に来て、私はいろいろ自分でできた「初めてできたこと」に感動しました。初めてできた日本人の友達、初めてホストファミリーのお父さんとお母さんとの旅行、初めて学校の先生にほめられたこと…「みんながいてくれて、励ましてくれたからこそ、この私が今まで頑張ってきたのです」と思います。

この一年間、私は本当にいろいろ勉強になりました。その中に、担任の先生がよく言う話「未来は自ら創りだすこそ有意義だ」という話はとてもすばらしいと思います。それは、私は将来、いったい何をしたいかと真剣に考えて、今から自分のやることすべて、責任を持ってやり続けよう、自分に役に立つことを勉強せよということだと私が思います。一年間教われたみなと総合高校もこんな教育を施行している学校だと思います。

元々私は、勉強はしていましたが、勉強して何をするのかとあまり分からなくて、将来何をしたいかもあまり考えたことないですが、みなと総合高校に来て、学校はほぼ選択科目で、自分で勉強したい科目を自分で決めて良いと先生に言われたときすごく驚きました。最初はどうすればいいかと分からなかったですが、みなと高校のみんなといろいろ学校行事に参加して、だんだん分かるようになりました。その中で、一番有意義なのはプレゼンテーション作りでした。友達と一緒に将来やりたいことについてプレゼンテーションを作ったとき、初めて真剣に「私、将来いったい何をしたいか」と考え始めました。プレゼンテーション作りも中国でやったことなくて初めての経験です。それに、私は迷ったり、作り失敗したりしたこともいっぱいありましたが、サポートしてくれた先生、手伝ってくれた友達、話を聞いてもらって、アイデアをくれたお母さん、プレゼンテーションのおかげで、みんなとの絆を深めたのもなんといいことだと思います。すごくすばらしい体験だと思います。

日本で一番影響を与えられたのはライフスタイルでした。私の周りの友達はみんな元気満々に毎日の生活を充実にして、自分の夢を抱えて頑張っています。「昨日の経験を貯めて、まだ見ぬ明日を目指しながら今日をつよく生きる」ということだと思います。

それに、優しく私のことを包んでくれたホストファミリー、友達、学校の先生に、心からありがとうと伝えたいです。みんなに出会えてよかったです。

「過去も未来も現在も、いつか全てが懐かしい」と嬉野雅道はそう言ったことがあります。帰国しても、私はこの気持ちを忘れず夢を抱えて生活を有意義にしていきたいと思います。

出会い

HUANG Chen

鳳凰高等学校／深圳外国語学校
黄　晨

わたしの人生の十六年目は、鹿児島で過ごしました。

わたしの住んでいる町は、鹿児島の中でも田舎です。だからこそ、穏やかな暮らしにすぐ慣れました。初めて学校に行った日は本当に緊張しました。一年間、どうやってみんなと仲良くしていくのだろうと、頭の中でぐるぐる回っていました。教室に入った瞬間、クラスの雰囲気にわたしが染められたように緊張感が「すっ」と消えました。二人の女の子がわたしの前に来て、自分の名前をわたしに教えて、そして「最初に覚えたのはわたしの名前だ！」「わたしだろ！！！」と「喧嘩」しました。笑いながら、このクラスならきっと楽しく過ごせると思いました。

入った初日から体育大会の練習でした。女子全員のマスゲームにわたしもでることになって、クラスメートに教えてもらいました。練習をきっかけに、すぐ仲良くなりました。練習はきつく大変だったけど、マスゲームはとても楽しく、友達もできて今ではいい思い出です。

だんだん慣れていくと、学校生活の楽しさを感じることができました。わたしはＥＳＳ同好会と茶道部とバドミントン部に入って、文芸部も運動部もそれぞれの楽しさを満喫しました。そして家庭生活も、稲刈りや日帰り旅行などいろいろな体験ができました。日本でしかできない体験をいっぱいしました。

寒い冬を越えて、やっと春になりました。桜の満開の時期にわたしは人生初の合宿に参加しました。昼はいっぱい走ってきつかったですが、夜には恋話や怖い話をして楽しかったです。合宿で学んだ一番大切なことは、「あきらめない」ということでした。初日、十キロのランニングに何度も倒れそうになりましたが、たどり着いた瞬間の達成感が何よりもよかったです。また、五月に地元の「砂の祭典」という大きな行事のボランティアとして参加しました。学生ボランティアの仕事は四日間に渡って行われました。わたしは写真撮影班で、会場をあちこち回ってお客様に写真を撮ってあげました。四日間ずっと天気がよく、気持ちもすっきりしました。写真を撮るとき、「はーい！チーズ」と疲れながらも精一杯の笑顔と元気な声を上げました。チケットもぎりの仕事にも入れ替わってしました。入場したお客様に挨拶してパンフレットを上げたりチケットをもぎったりしながら、「絶対スタッフの中に外国人がいるなんて気づけないだろう」と思いました（笑）。もう疲れて足が痛くて動けないと思いましたが、友だちと一緒に顔を上げて、夜空にパーと開く花火を見ると疲れが飛んでいきました。

この作文を書いている今、わたしの留学生活はあと一ヶ月しか残っていません。今まで、そしてこれからのすべての出会いが、わたしにとっては宝物です。両親以外の家族に出会いました。国境を越えた友だちに出会いました。根性を磨いてくれた出来事に出会いました。そして、出身地以外の故郷に、出会いました。たくさんのすばらしい出会いたちを抱いて、わたしはきっともっと遠くへ行けるはずです。

一年前の暑さ、覚えてる？

ZHONG Bingwen

桜丘高等学校／深圳外国語学校
鐘　冰雯

先月、友達と話していると、みんなは去年のテストの準備をしていることに気づきました。良く考えると、私が緊張しながら北京から家に帰って、結果を待つ日と興奮しながら日本に来た日から、すでに一年が経ちました。「貴重な時間は短いから、大切にしなきゃ。」とよく言われます。しかし、そんなことを分かっていても、時間を把握できない人は多いでしょう。

四月のクラス替えの時、自分のクラスは替えませんでしたが、去年九月までいた六組はクラス替えでみんなバラバラになりました。そのクラスの全員にあえなくなりましたが、たまに学校で見かけることができます。

また深刻な問題になりました。「時間は元に戻りません。」

私が一年間住んだ町は、「豊橋」です。その第一印象は駅から出たときに見た看板に書かれた「豊かな国」です。この地域は毎日雨がふるのかなとおもいました。実際、雨が多く、いつも夜に降ります。朝起きると、雨の香りと涼しさしか感じられませんでした。夏だったらみんな喜ぶでしょう。

９月に中学校から三年間一緒のクラスにかわり、みんなの中に溶け込めるかストレスを感じました。朝の香りのおかげで、ストレスも少なくなりました。

この一年体調不良で学校を休むとき、友達がノートを作ってくれました。休むと授業についていけなくなるから、とても嬉しかった。また気持ちが悪く休んでいると、ホームシックになりました。そんな時寮母さんが様子を見に来てくれました。涙が出そうになり暖かさを感じました。

これも日中文化の違いの一つかもしれません。中国では、代わりにノートを取る考えはありません。みんな塾で勉強しています。学校は復習のみでなくてもいい存在になりました。一日休んでも心配はありません。

みんなが一番楽しみで大好きなことは部活です。私も同じです。残念ながら高等部に入って部活する時間が少なくなりましたが、毎週部活の日、一日中ずーっとウキウキしてました。

私は料理部に入っています。卓球部に入りたかったのですが、下手すぎで時間も少なく断念しました。毎回部活の日は、晩御飯を残してしまいます。寮母さん、本当にすみませんでした。

部活でレシピをもらって、ホストファミリーに作ったこともありました。一回、ハヤシライスを作ったのですが、失敗して、ケチャップ豚肉になってしまいました。でも最後に美味しかったと言ってくれて、なんとなくうれしかったです。

いつの間に、七月が近づいてきました。「日本はどう？」「高等部はどう？」などを聞かれることも多くなりました。

来た時と同じだんだん暑くなりました。時々生活はループみたいに、良くなったり、悪くなったりの繰り返し。以前日本のドラマを見て、日本の暮らしに憧れていましたが、来てからなれなくて嫌いだった時期もありました。今はやっとなれて好きになりましたが、もうすぐこの生活にお別れを言わなければなりません。これからはきっとなつかしいと思うでしょう。

最後はお世話になった方々への気持ちです。

知らないうちに、多くの方々にお世話になりました。

本当に、ありがとうございました。

《受入校からのメッセージ》

大切な仲間

高知県立高知西高等学校　教諭　国則　美恵子

「西高校に来てくれてありがとう。日本を好きでいてくれてありがとう。」許佳傑さんとの別れの会で、クラスメートが涙ながらに語った言葉でした。

新聞紙上やニュース等で領土問題が多く取り上げられ、「許さんの来日は、中止になるのでは？」と心配する生徒が多い中、彼女は笑顔で高知にやってきました。流暢な日本語と前向きな態度、誠実さと優しさで、すぐクラスの人気ものになりました。

本校は、国際交流の非常に盛んな学校ですが、近年留学生として滞在した生徒のなかでも特に優秀であり、全ての教科・科目において努力するなど、校則を遵守しながら、積極的に学校生活を送り、多くの生徒と深い友情を育んだといえます。

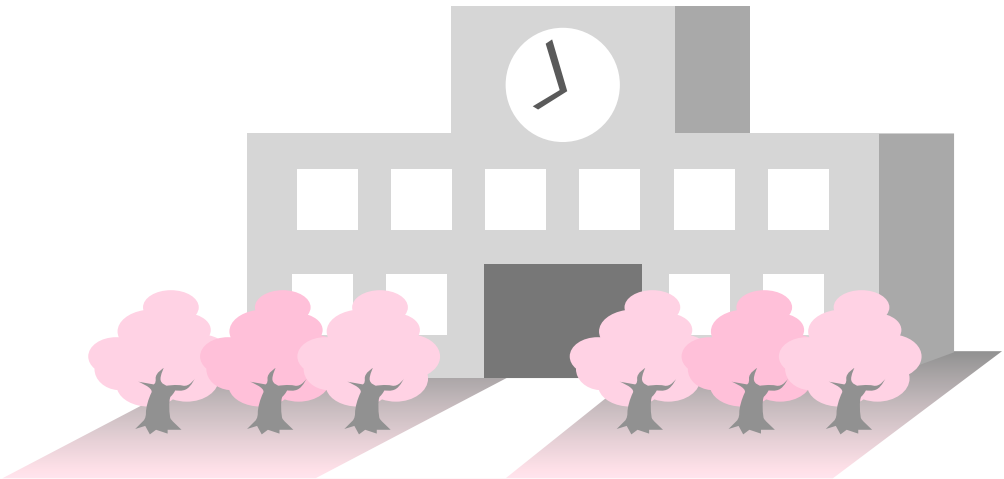
留学当初には苦手科目であった漢文・古典など日本の学校独自の授業にも、意欲的に取り組み、徐々に成績を伸ばし、難しい日本語での授業にもかかわらず、どの教科・科目においても、本校生徒に引けを取ることなく、全国模試等でも非常に優秀な結果を出しました。特に英語は優秀であり、英語検定やTOEICへの取り組みに向けて準備していました。

多趣味であり、学習だけでなく、調理部、英語研究部や中国語研究会などの部活動にも参加し、様々なことに積極的に取り組みました。本校の国際交流活動をよく理解し、種々の活動に参加、中国の文化や学校のことについて紹介するなど、本校での日本と中国の親善に大きく貢献してくれました。

また、平成24年度高知県高等学校生徒国際理解教育生徒研究発表大会に、個人発表「留学生の部」に参加するなど、流暢な日本語でスピーチを披露して、観客を驚かせたことは、私達の記憶に強く残っています。

掃除の時間、ゴミ袋の中に、領土問題についてのチラシを見つけた生徒が、「許さんに見せたくないから。」と、袋の奥の方に突っ込んでいるのを見て、心が温かくなりました。「大切な友人の国だから、中国を身近に感じ、親近感を持っている。」彼女と関わった生徒は、みなそう言います。「日本を好きでいてくれて、私達の友情も大切にしてくれる。そんな彼女の国との関係を、自分たちも大切にしたい。」と。

周囲にいる生徒達が、許さんを大切に思えることは、許佳傑さんの留学プログラムの大きな功績と言えるのではないかと思います。「大好きな日本で、友達も多くできた。その人たちがいるから、この国をより一層大切にしたい。両国の関係はさらに良くなれる。私は、日中親善の懸け橋になりたい。」という言葉は、私達への最高の贈り物になったと言えます。



《受入校からのメッセージ》

日中のかけがえのない絆

横浜市立みなと総合高等学校　教諭　岸　章浩

横浜市立みなと総合高校は2002年に総合学科高校として再編成された新しい学校です。生徒一人一人の興味、関心を生かせるように豊富な選択科目を設定しています。特色の一つとして国際交流教育にも重点を置いて様々なプログラムに取り組んでいます。横浜港や中華街に隣接する土地柄、外国から様々な学校見学や体験入学などの訪問が多く、その対応に生徒が国際交流バディとして当たっています。またカナダ・バンクーバーのブリタニアセカンダリー校と姉妹校、中国・上海の蘆湾高級中学と交流校の関係にあり、毎年それぞれの高校を訪問し、ホームステイをして交流するというプログラムは本校の二大行事と位置付けられています。

しかし残念なことに昨年日中両国を取り巻く社会情勢の影響を受け、上海蘆湾高級中学訪問交流プログラムは延期を余儀なくされました。本校には中国と関わりを持つ生徒も多く在籍していますし、中国語を学習を希望する生徒は毎年多くおり、今回のプログラム延期決定には多くの生徒が悲しみました。

国際交流基金日中交流センターの心連心（Heart to Heart）中国高校生長期招へい事業と本校とは長年にわたるお付き合いがあり、毎年中国からの留学生をお預かりしています。優秀な留学生が本校に来て、クラスや学校生活に馴染み、本校生徒とも親しく交流ができ、留学生だけでなく本校生徒にとっても有意義な交流ができています。

2012年度は満雪陽さんでした。満さん、通称エリアは優秀でとても利発な生徒で、何より独学で勉強したと言う日本語がとても流暢で、クラスに入ると全く違和感がなくなってしまうくらいクラスに溶け込んでいました。

今年の４月にはクラス替えも経験し、今度は私が担任のホームルームクラス２年６組になりました。新しいクラスにも友達が沢山できました。大勢のクラスメイトに囲まれて、にこにことそれは楽しそうに過ごしていました。流行りのギャル語もいつの間にかエリアの口から聞こえて来るようになりました。５月の校外学習ではコミュニケーションスキルアッププログラムで足柄山へ行き、クラスの一員として協力してゲームやレクレーションに参加しました。６月には体育祭がありました。それがエリアのみなと総合高校で経験する最後のイベントだったので、閉会式が終わった直後にグラウンドの片隅で、クラスメイトが円になってエリアを囲み、用意して来た色紙をサプライズで手渡すと、感激したエリアの目からは大粒の涙が溢れ出しました。その涙を見た何人かのクラスメイトも思わずもらい泣きをしてしまいました。エリアはもうすっかり、みなと総合高校の２年６組の一員でした。

生まれ育った国は違っても、話す言葉が違っても高校生は友達になれるのです。一緒に過ごした学校生活の思い出は一生の宝になります。共に過ごした時間や交わした言葉がお互いを理解し合い、固い絆を築くことができるのです。それは決して大人の都合や政治の思惑などで左右されることのないかけがえのない絆です。この絆を築いた二つの国の高校生達は、将来大人になっても決して不毛な諍いは起こさないと信じています。

《ホストファミリーからのメッセージ》

「優等生! さんちゃん」

東京都ホストファミリー　椎名　道子

今回、太原市から来た楊賛さんは16歳の高校生でした。

我が家では3人目の中国留学生です。先に来た二人の心連心の学生と同じく、初めて我が家に着いた時には日本に来たことがとても嬉しそうで、また色々な事が興味深々と言った様子でした。早速、日本の何に興味があるのか、何が好きなのか、何処に行きたいのか、話し合いました。いつも、来てすぐには一年の間で、どの様にスケジュールを組もうか話し合います。私たちも楽しみなひと時です。

我が家では外国の学生の受け入れを始めて15年経ちました。最初は2週間から、次は1月、そして2ヶ月と少しずつ期間を長くして来ていましたが、11ヶ月もの長い期間の受け入れはこの心連心が初めてでした。最初は期間を3ヶ月位に考えていましたが、日本での暮らしの一年を是非紹介したいね！との思いで、決めました。

日本はもともと、四季折々に伝統的な行事があります。私たちもそれを大事にしてきているので、それを伝えることが出来るのをとても嬉しく思いました。実は日本の伝統的な行事は中国から伝わって来ていることが多いのです。それについて話をしたり、今の中国の生活について話したり、お互いの事を話したり良い時間を過ごす事が出来ました。

賛ちゃんの学校生活も色々な事が有りました。部活動が思い通りに行かないこと、でもクラスでは良い友人が沢山出来たことなど。沢山話し合いました。彼女は自分の意思がしっかりとしていて、何が好きか、何処に行きたいか、何になりたいかをストレートに私たちに伝えてくれていたので、それにはどの様にしたらよいかそれとなくアドバイスをしていました。賛ちゃんはそれを素直に聞いてくれたからより良い一年を過ごせたのではないかと思います。そして、驚くべきことに普段授業を受けていなかった国語の試験までも受けて全教科合計でも学年で一位になりました。部活でも結果的には最後までやり通し、本当の友情を得ることが出来たように思えました。

国際交流と言うと、大変な事の様に思いがちですが、人と人の繋がりだと思います。同じ中国の人でもそれぞれ考え方、感じ方は違います。ですから中国人である前に一人の人間だと言うことです。中国は本当に大きな国ですから北と南では言葉も違っているので当たり前ですね。そう言った事を知ることが出来るのが私たちには嬉しいことです。私たちも知らず知らずのうちに表面だけで判断していることが多いのを思い知らされました。

今年の春が来たときには、残り少ない日本での遺り残したことをやりましょうと、色々な所に行きました。我が家ではそれぞれの得意なことを分担してやりました。娘は富士急ハイランドへ行き、私は、彼女の予てからの希望の京都へ一緒に行きました。事前に彼女に行きたいところを調べるように伝えた所、まさに高校生の修学旅行に行く所を選んできました。私も、一緒に行った娘も何十年ぶりの修学旅行でした。何十年ぶりかの金閣・銀閣は素晴らしく、清水寺も初めてゆっくりまわり、思っていたよりずっと素敵な旅となりました。そんなことも賛ちゃんが来てくれて行きたいといってくれたから出来たことでした。

帰国してからも、時々メールでやり取りをしていますが、相変わらず元気で意欲的に毎日を過ごしていることが分かります。彼女を見ていると、理想的な高校生活を送っていると思い、改めてそれが出来ることが優等生だなと思いました。

本当に我が家に来てくれてありがとうと心から言いたいです。これからも、賛ちゃんの活躍を祈っています。そして、また我が家に遊びに来てほしいです。

我が家の国際交流はまだまだ続きます。この楽しい経験を皆様に伝えたいです。ありがとうございます。

《ホストファミリーからのメッセージ》

心連心の4人の高校留学生

島根県ホストファミリー　豊永　瞳

私は、ご縁がありまして、この数年4人の中国高校留学生と生活を共にする機会に恵まれました。心連心が立ちあげられて、第2回生からでした。若い心連心の先生方も、まだ手探り状態で、大変ではなかったかと振り返って思います。しかし、受け入れる、学校も、ホームスティ側も不慣れでした。私は欧米人とは多少の関わりがありましたが、すぐお隣の国でありながら中国人との出会いはまったくありませんでしたので、やはり不安でした。それでも、どんな高校生が来てくれるだろうと楽しみでもありました。松江の駅で、東京まで出迎えに行かれた、高校の先生から引き合わされたTさん、（あら！可愛い！）が第一印象でした。我が家に着くなり、「うぁ！綺麗、綺麗」と部屋を見廻して表現してくれた時は、一生懸命、掃除して良かったと、内心ほっと致しました。

はじめの一月は、学校まで、バスでの通学路を一緒に同行したり、先生との打合せに、でかけたり、制服の採寸とり、教科書の受け取り等、外国人登録で市役所まで出向き、銀行に口座を設けたり、はじめての事柄に翻弄しました。

そして、日々の弁当作りは、娘達が巣立って、長年遠ざかっていましたから、リズムをつかむまでは少し大変だったと記憶しています。

ある日、学校生活が始まったばかりのTさんが帰りのバスの中眠ってしまい、まったく知らない場所に降りたと、泣きそうに電話がかかりました。何処から電話してるのかと聞けば、ガソリンスタンドで電話を借りたと答えるので、スタンドの場所を訪ね、慌てて迎えに行ったこともありました。なんと、忙しかったでしょう。それも、今では懐かしい思い出です。（この時、携帯電話を持たさないとこちらが不安になると思いました。）＊

4人に共通して言えるのは、問題にぶつかるのは、大抵、一月を過ぎてから、お互いの緊張がほぐれたところから始まります。だんだん、自分を主張出来るようになります。Tさんに一番悩まされたのは偏食でした。玉葱、人参、ピーマン、ネギ、そして、ミンチ肉は肉ではない、と言われ、どうしましょうと悩みました。その上、日本人とは比較にならない主張の激しさに、私は1年間大丈夫かなと悩みました。

フランスに留学経験のある、かかりつけのお医者様に定期受診した時、血圧が高いと注意されました。実はこうこうしかじかで、今、食生活が思う様にできていないことを話しましたら、「あなたは、間違っています。彼女は、日本に留学しているのです。あなたが、外国に行った時まわりは、あなたにあわせてくれましたか？僕もフランスで僕が心地いいようにまわりから親切など一度も受けていませんでした。あなたは日本式でやるべきです。」と叱られました。（それもそうだな）と妙に納得したのを、覚えています。それからは、Tさんにどうしても、食べたいものは、買い物の時、材料を選び、自分で料理してもらうことにしました。私の料理に嫌な、食材が入っている時は、出してもらってもいい、それから、洗面所の使い方とか、トイレの使い方を日本流にはっきり教えました。日本人は相手を思いやるのが普通ですが、外国の人にそれが通じない場合もあると感じました。共同生活をするにはお互いにストレスをためないようにしたのだとTさんと話し合いました。さすがに若い人だけに、順応性は早く、その後の日々は楽しく過ごせたと自負いたしております。

4人の留学生には、等しく、日本の古都、奈良、京都へは距離的に近いこともあり、一緒に旅行しました。何度も訪れることで、私自身随分多くの歴史に触れる機会に恵まれました。一番感動したのは、あの有名な鑑真のお墓が唐招提寺の裏にあることを知り。Rさんと訪れました。それは、想像したのと違って、時の将軍の墓よりずっと、広い場所で、風の流れのよい。隅々まで、手入れの行き届いた話しのなかにありました。もっと、驚いたのは、みずみずしい生花が、今でも生けられているのです。1200年以上も前の方をこんなにも大切にされていることが本当に感動でした。中国でも鑑真和尚は特別な方なので、Rさんは涙を流して感動しました。これこそ日本人のおもてなしのやさしさです。

私も、日本人であることを、非常に誇りに感じた瞬間でした。留学生をお世話することで、私自身多く学ばせて頂きました。あまり、詳しくないPCも教えていただきました。チャットというものがどんなに楽しいものかも知りました。4年間高校生と暮らせば、私も高校生の初々しい感性でいられました。

彼女達をお世話したのではなく、彼女達に教えられたことのほうが大きいと思います。その後、彼女達は、切磋琢磨の勉強を続けていまして、日本に大学生で留学してくるらしい情報が届いています。その時には、また、心連心に一緒にお邪魔したいと楽しみにしています。

最後に、心から願うことは、この、心連心が永く続き、中国の若者たちが、日本を本当に理解し、後ろ向きではなく、手を取り合って前に進む自分たちの未来を作って行かれることを希望しています。

感謝

＊現在は来日中の全招へい生に携帯電話を貸代しております。

《友達からのメッセージ》

ガヒへのメッセージ

沖縄県立向陽高等学校　砂川　妙華

ガヒ（郭雅菲さん）とは、クラスや部活が一緒で話す機会が多く、また寮生なので、たまに部屋に遊びに行ったりしていました。互いに日本のことや中国のことを話し、異文化に驚きながらも、学び合うことができました。ガヒはとても頭が良くて教え方が上手く勉強の面でもたくさん助けてもらいました。何かイベントがあるたびに仲良しの友達みんなで遊びに行ったり、食事に行ったり、友達の家に泊まったりして楽しみました。何より思い出に残っているのが向陽祭の後夜祭に二人で「雪の華」を歌えたことです。お互いの部屋に行って中国語と日本語で歌えるように練習し、本番ではしっかり歌うことができました。ガヒが苦手なカタカナで中国語の読み方を書いてくれたことがとても嬉しかったです。一緒にいて安心できるような友達に出会えてたくさん支えられてガヒにはとても感謝しています。大学に行っても頑張ろう！大学院生になる時は日本に帰ってきてね。

《友達からのメッセージ》

留学生との交流を通して

鳳凰高等学校　松田　愛衣

留学生の黄晨さんがクラスを去って、３ヶ月が経ちました。晨さんのいない教室は少し物足りなく、寂しく感じます。

はじめて中国から留学生が来ると知った時、楽しみの反面不安でもありました。日中関係が良好とは言えないので、仲良くなれるか分からなかったからです。しかし、晨さんと出会い、共に過ごしていく中で、そんな不安はすぐになくなっていきました。クラスに留学生がいることでたくさんの刺激を受け、日本以外の国を考えるきっかけをもらいました。中国へ行ってみたいと思ったのも、晨さんの頑張る姿を見ていたからです。訪中の機会を得て、私は生まれて初めて海外に行き、文化の違いを体感することができました。同時に日本のすばらしさに気づくこともできました。

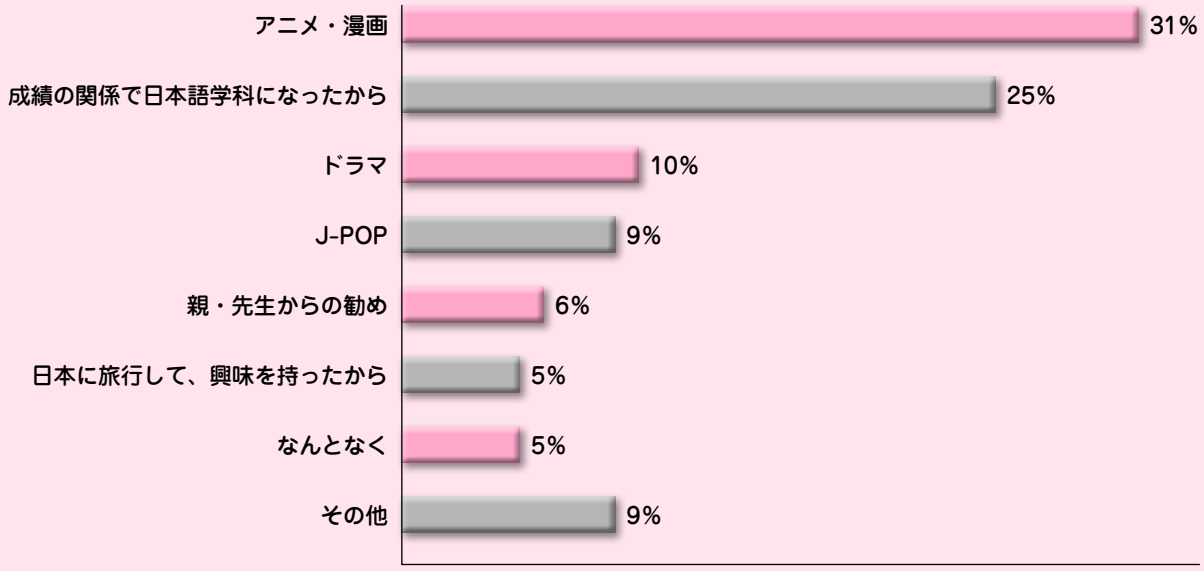
晨さんとの交流を通して学んだことが二つあります。一つ目は、たとえ国同士の関係が良好ではなかったとしても、人と人との間では良い関係を築けるということです。このことを多くの人に伝え、心の壁を無くしていきたいと思いました。二つ目は、外国に興味、関心を持ち続けることの大切さです。急速に国際化が進む今日、国内のことだけでなく、広く世界に目を向けることで、国際感覚を養っていきたいと思います。

晨さんと過ごした日々は私にとって宝物です。帰国後も頑張り続ける晨さんに負けないよう、再会の日を楽しみに、私も日々頑張っていこうと思います。

七期生32人に聞きました！

一年の留学生活を終えた第七期生32名に、さまざまな質問をしてみました。皆さんの声をぜひお聞きください！

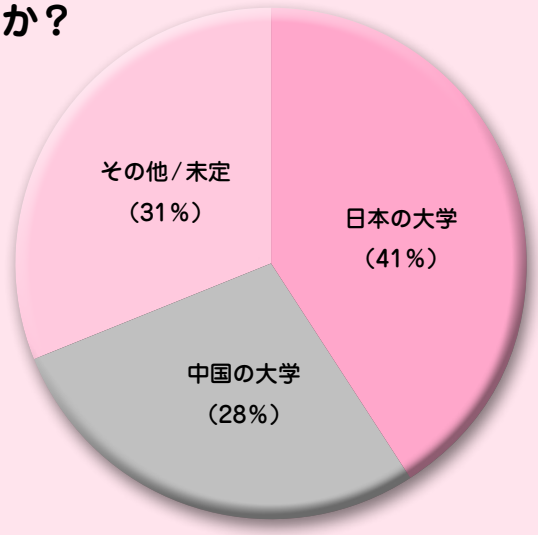
日本語を勉強しようと思ったきっかけは何ですか？（複数回答可）



日本のアニメ・漫画の力はすごいですね。学校の行事や日本人の習慣など、漫画で学んだという声もありました。一方、成績の関係で日本語を選択したという声も。

卒業後に希望している進路は何ですか？

中国の大学へ進学を希望する生徒よりも、日本の大学へ進学しようと考えている生徒が多くいました。
中国の大学によってはカリキュラムに日本留学が含まれています。
みんな～また会えるのを楽しみに待ってますよ～!!



七期生の○○★BEST5

1 オススメの場所★BEST5

みなさんの好きな場所を聞いてみました！京都は不動のトップ！学校など愛着のある場所を挙げる生徒も多かったですね。

1位 **京都**（金閣寺、清水寺、京都駅など具体的な意見もありました！）

2位 **自分の通った学校**

3位 **大阪**

4位 **駅**

5位 **北海道、カラオケ**

その他　部活をしていた道場、友達とおしゃべりした場所など

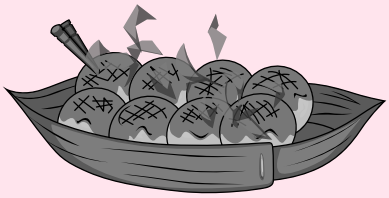
2 日本食のコレが好き★BEST5

王道のてんぷら・寿司よりも、たこ焼き・お好み焼きを好む生徒が多く、高校生には和食の薄味よりもソースの濃い味がお好みのようです。お好み焼きを食べ過ぎて嫌いになった、という声もありました。

1位 **たこ焼き**

2位 **お好み焼き**

3位 **すき焼き　、てんぷら　、寿司**



ランク外

惜しくもBEST5には入りませんでしたが、わらびもち、たい焼き、大福、ようかん、抹茶ゼリーなどの和風デザートが、男女問わず人気でした。確かに中国でもモチモチした触感や抹茶味のお菓子はよく見かけますね。また、ラーメン・うどんなどの麺類が好きという生徒も多かったです！○○高校食堂の唐マヨ丼、チーズかまぼこ、納豆という声もありました。

★ 嫌いな日本食は？？★

２年連続ダントツで納豆がワースト１！

他には　お刺身、てんぷら、コロッケ、魚介類、お好み焼き　などがありました。

3 好きなテレビ番組☆BEST5

バラエティ番組が大人気！イモトのファンが多いです。志村どうぶつ園は２年連続BEST5入りを果たしました!! こうしたバラエティ番組を通して、楽しみながら、日本語の勉強をしていたようですね。

1位 **「世界の果てまでイッテＱ！」**

2位 **「なんでもワールドランキング　ネプ＆イモトの世界番付」**

3位 **「天才！志村どうぶつ園」**

4位 **「ザ！世界仰天ニュース」、「ミュージックステーション」**

その他　「関ジャニの仕分け∞」、「嵐にしやがれ」、「ＶＳ嵐」、「ザ！鉄腕！ DASH ！！」、「ナニコレ珍百景」、「情熱大陸」、「世にも奇妙な物語」など。

4 好きな作家☆BEST5

東野圭吾の小説が大人気！すべての小説が好きという生徒もいました。また、４位には漫画家がランクインしました。

1位 **東野圭吾**　『真夏の方程式』、『名探偵の掟』など

2位 **夏目漱石**　『吾輩は猫である』、『心』

3位 **川端康成**　『伊豆の踊り子』、『雪国』、『古都』

4位 **森繁拓真**　『となりの関くん』、　**鎌池和馬**　『とある魔術の禁書目録』

おまけ

好きなアーティスト

さまざまなジャンルの芸術家・芸能人の名前があがりましたが、トップは２年連続で嵐!!
松本潤が特に人気でした。一方、デヴィ夫人という声も！

ダントツ 1位　嵐

その他　小栗旬、山下智久、きゃりーぱみゅぱみゅ、倉木麻衣、ＹＵＩ、北川景子、荒木飛呂彦など、俳優・歌手・漫画家などさまざまな名前が挙がりました！

Q1. 日本での生活を通じて、自分はどこが成長したと思いますか？

1位 交流する力を身に付けられた！

「積極的に周りの人に話しかけられるようになった」、「自分をアピールして、うまく周りの人とコミュニケーションを取れるようになった」、「人と付き合うことが上手になりました」など、友達作りには本当に努力をしたようです。苦労したからこそ、成長できたのですね。

2位 自立できるようになった！

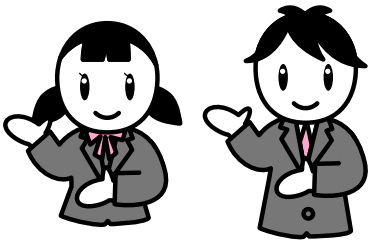
日本に来て初めて包丁を握ったという生徒もいましたが、「家事など一人でできるようになった」、「自分のことは自分でやるようになった」、「電車も乗れるようになった」など、生活面で自立する力がついたという声が多くありました。また、「自分で考えて決めることが多くなった」、「人に頼らず、自分で色々考えるようになった」など、心の自立も。「自分の哲学を持つようになった」、「寂しさに対する我慢」などの声もありました。

3位 思いやりをもって行動するようになった！

「ほかの人のことを考えるようになった」、「思いやりの心を持つようになった」、「周りの人の感覚を考えながら、行動をするようになった」など。来日当初は相手の気持ちを考えるということが苦手だった生徒もずいぶんいましたが、帰国するころには自然と相手を気遣うことができるようになったようです。ありましたが、みんながそれを乗り越えてきました。

留学生の声

- Voice of Students すべてが思うとおりにうまく行くわけにはいかないので、緊急の時の対応力がUPしたと思います。
- Voice of Students 国際的な考え方で物事をみるようになった。
- Voice of Students ひとりで出かけることができました。
- Voice of Students 大人として背負わなければならない責任を分かってきました。
- Voice of Students 将来について詳しい計画を立てました。
- Voice of Students 新しい環境に入ってもすぐ友達が作れるようになった。
- Voice of Students どんなことでも、楽観的に考えるようになりました。
- Voice of Students 自分の母国を、外国の視点から正しく見ることができ、母国のためにできることを見つけた。
- Voice of Students きちんと約束を守ること、守れなさそうなときは事前に必ず連絡すること。
- Voice of Students 何が起こっても焦らずに落ち着いて考えられます。



Q2. 留学中、あなたが一番辛かったことは何ですか？

1位 日本語が分からないこと！

来日してすぐは、日本語が分からず、授業についていけなかったり、話題には入れなかったり、誤解をされてしまったり、と勉強面・交流面双方で悩んでいる生徒がとても多かったようです。

2位 通学

日本では学校まで、自転車や公共交通機関を使い、自分で通わなくてはなりません。中国では両親が送迎してくれたり、寮に住んでいたりと、自分で通学する経験のない生徒達はとても苦労したようです。また、女子生徒は制服がスカートなので冬は寒かったようです。

3位 友達・ホストファミリーとの別れ

クラスや部活でのお別れ会やホストファミリーとの最後の別れは本当に辛かったようです。多くの生徒たちが最初は日本語が分からず、クラスに馴染めず、とても不安だったと言っていましたが、帰国時には別れが辛くなるほどかけがえのない仲間ができるのですね。

その他

病気になったこと、友達作り、人間関係がうまくいかないとき、などがありました。

留学生の声

Voice of Students　お弁当です！冷たい（常温の）ご飯を食べるのはなかなか慣れなかった。

Voice of Students　別れです！一週間も続く送別会、本当にいろんなところで涙落ちちゃいました。

Voice of Students　最初の時、日本語がまだできないせいで、授業が辛かった。だんだん日本語が上達してきて、授業もほぼ理解できた時、やっぱりみんなの話に乗れないのはとても辛かった。

Voice of Students　日本に来たばかりの３カ月で、まだ日本の社会がそんなに分からないとき、「××線」、「マツキヨ」、「ミスド」という言葉が出てきて、分からないことが一番辛いですね。みんなに日本について何でも分かると思われました。

Voice of Students　病気になったときは一番辛かった。

Voice of Students　卓球部に入って、最初は何もわからなくて、全然できませんでした。先輩たちは試合があるのに、自分の練習をやめて教えてくれました。とても感動しましたが、自分はすごく迷惑をかけて辛い思いをしました。練習試合も負けっぱなしで、どうしようもなくて、悔しかったです。

Voice of Students　部活動は楽しかったですけど、続けるのは辛かったです。毎日部活があって、土日も学校に行かなきゃいけないのは私にとって辛かったです。

Q3. 留学中、あなたが本気で頑張ったと思うことは何ですか？

1位 部活動への参加

来日当初から日本の部活動を楽しみにしている生徒が多く、ほとんどの生徒が部活に入っていました。演劇や茶道などの文化部から、卓球や剣道などの運動部まで、勉強と両立を目指してがんばりました！！

2位 友達作り

最初はなかなか仲の良い友達ができず、悩んだ生徒がたくさんいましたが、自分から話しかける努力を続け、クラス、部活、地域で友達の輪を広げました。

3位 学校の勉強

古典やカタカナの多い世界史、生物などは生徒にとって難しかったようです。一方、英語や数学は学年トップになる生徒もいて、受入校からは日本人の学生への良い刺激となったというお話もいただきました！

4位 行事への参加／日本語の勉強

文化祭や体育祭、合唱コンクールなど、中国にはない、日本の学校行事を楽しんでいたようです。こうした活動を通じて、仲間との絆がより深まったという声も多くありました。また、日本語については日本語能力試験の勉強をがんばった生徒が多くいました。

留学生の声

Voice of Students 本気で頑張ったのはたくさんありますけど、特に部活の茶道のお点前を覚えて、文化祭を頑張ってやりました。クラスの文化祭ではたこ焼きを作りましたから、何百人前のたこ焼きをつくったんです。試験と勉強も頑張りました。

Voice of Students 初めての国語の週明けテストは24点しか取れませんでした。あまりにもショックをうけて、本気で頑張りました。で、次のテストで92点を取りました。満点ではないが、達成感満々でした。

Voice of Students 周りの人々が中国の改善点について話しているのを聞いても、真実を認めて、できるだけ中国のいい所も伝えてみました。

Voice of Students 最初に日本に来た時、みんなはいつも挨拶してくれたけど、何か皆の輪に入れない気がした。私は皆と本当の友達になるために、勇気を出して日本人としゃべったり、だんだん2人の心が近づいて、本当の友達になったと思っています。

Voice of Students 一生懸命友達を作って、話しかけました。辛い時、頑張って乗り越えました。帰りたいときは頑張ってここでの面白いことを思い出して、自分を励ましました。

Voice of Students 自分が頑張ったというより皆でがんばったのだと思います。学校の合唱コンクールのとき、結果最後は1位でなくて2位で、皆が泣いてしまいました。しかし、思い出したらすごく貴重な思いだと思います。

七期生を受け入れて

受入れのご感想

中国人の学生さんを受け入れるのは初めてで、正直少し不安でしたが、本当に素晴らしい学生さんで、それまで持っていた中国のイメージががらりと変わりました。

国の習慣の違いや考え方の違いはあったが、お互いに妥協点を見つけ、一体感が生まれたこと、あまり気を遣わずに生活ができたことで、自分の考え方も変わった気がします。

長女が中国語にとても興味を持ちました。そのことで、より勉強をするようになりました。

ちょうど反日感情が高まっていたときに来日したので、気を遣いましたが、その中でも差別されることはありませんでした。

我が娘のように、人懐っこくて、かわいい子でした。受け入れた期間があっという間で、本当に楽しい毎日でした。良い機会をいただき、ありがとございました。

生徒を受け入れたことにより、家族間のコミュニケーションを多く持つことができました。そして、忘れかけていた「相手の立場になって物事を捉える」ということを思い出させてくれました。

娘が同じ年頃で、とても刺激を受け、日本の教育は甘いんだと思ったようで、自分でできることを一生懸命するようになりました。

日本、中国という国ではなく、人として接することが一番よいことであると思いました。お互いのよいところ、悪いところから学ぶことで、本当の意味で日中友好が達成できると思います。

何より、一緒にいて楽しかったです。私たち家族にも会話が増えたかもしれません。留学生にも日本を親しい国、人だと感じてくれれば嬉しいです。

中学生の息子にとって、中国の学校や普段の生活についての話は、日本以外の国にも興味を持つよい機会になりました。

祖父、父、息子と４人で麻雀をするのが恒例になりました。高校２年生の息子とはそのような機会も少なくなっていたので、留学生との麻雀を通して家族団らんの時間が増え、嬉しかったです。

中国に対しての偏見がなくなった。日本以外のことに興味が出た。世界に目を向ける大切さ、どんなことにもチャレンジする勇気が出た。

★招へい生について★

中国の人との文化の違い、考え方の違い等、私たちが思っていた以上に、日本と中国の同世代の子供でも差異があるとかんじた。国による文化や考え方の違いを改めて学んでいた。

子育ての大変さ、物事の伝え方の難しさを感じました。

自分から一歩前に踏み出さないと、友達をはじめいろいろな発見はない、と日本に来て強く思ったようです。

食事の準備や調理の手伝いを通じて、日本食に興味を持ったようです。料理本を買っていました。帰国後に両親に作ってあげたいと思ったようです。

娘と同じ部活に参加していました。試合にも出場して、部活動のことは家に帰ってきてからもよく話をしてくれました。

日本人のように曖昧にせず、強い目的と意志を持っている所に感心しました。負けん気が強く、常に「できる」と言い切るところに、世界で生きていくためにはこのような力も必要なのだと感じました。

受入れのご感想

長いスパンでこれからの日中関係を考えていくことが非常に大切ですので、日中の生徒たちが、20年後、30年後に、このプログラムを通して学んだことを活かしてもらえればと思います。

言語や文化の違いについて、留学生の存在から直接学べる部分が大きく、留学生の母国に対して親しみが持てるようになりました。政治的、経済的問題が存在していても、個々の国民の直接的な交流から、一人の人間として、その人を捉えることができるようになりました。

受入れ当初から、学校内外の様々な活動に積極的に参加する姿勢は、本校の生徒にかなり大きな影響を与えてくれました。また、自分の時間を割いて、中華圏に留学する同級生の中国語の指導にもかかわってくれ、とても感謝しています。

非常に勤勉で、礼儀正しく、日本語も上手でしたので、本校生徒に良い刺激を与えてくれました。日中関係が冷ややかな中、中国人留学生がいることで、中国に対する見方が変わった生徒もいたようです。

現在、日中関係には様々な問題がありますが、日本人と仲良くしたいと考えている中国人もたくさんいるということを日本の高校生に気付かせることができました。

受入れ前は、予算のことや制服、教科書の準備など、初めてのことばかりで大変だと考えていましたが、本人が来てから、そのような気持ちがなくなるほど、本当によい1年でした。

積極的な発言、本質をついた質問、勉強に対する一生懸命な態度がまわりの生徒の刺激になりました。

中国の人々の考え方や留学生本人の経験について、本人の口から直接聞き、また、こちらからの疑問も、友人として聞けるという経験は、お互いにとって大きなメリットのあることだと思います。

近くに外国人だけど日本語が上手で、一生懸命努力する仲間がいることは、日本の高校生にとって、非常に大きな意義があると思います。

★招へい生について★

学校生活や寮生活の中で、誰とでも分け隔てなく交流していく中で、教科書どおりの丁寧な硬めの日本語表現から、高校生が使っている表現なども増え、大勢の中にいると誰が中国人留学生なのかわからないくらい溶け込んでいました。

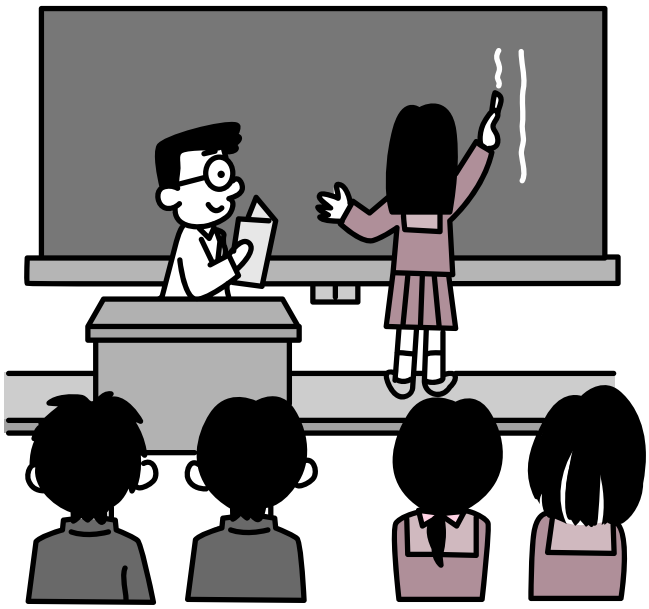
中国で学んできた、あるいは身につけてきていたものとは異なる価値観を受け入れることができたようだ。

部活に所属し、週３～４回活動を共にし、親友を呼べる友人を作っていた。

友人とは日本のテレビ番組や歌手などの話題が多かったようである。

自分の思い込みや中国での習慣どおりに行動した結果、注意されることが多かったが、同じ間違いを繰り返していなかったので、努力をしていたのだと思います。

本人が悩んでいた時期に、他の先生方の助けを得て様々な話ができたのは良かった。



あとがき

心連心中国人高校生各期生から、『優秀』、『強運』などの言葉に相応しい人材が多く輩出されているのを嬉しく思います。

帰国後、みなさんは日本滞在中に育んだ自分の『夢』を実現するため、奮闘中かと思いますが、途中苦しいことに遭遇しても、東日本大震災の被災地訪問の経験や日本で磨いた青春力で乗り越えるものと信じてやみません。

能力や運に恵まれ、夢をもったみなさんも、最初不安と期待で来日し、その後、学校の先生やホストファミリー家族の温かい眼差しや、級友や部活の友人の笑顔の励ましを受けつつ、日本の生活にすばやく適応されましたね。流石です！一方、帰国する頃は、日中交流の一翼を担っている自分を発見して、自信を持たれたかと思います。日本で得た経験や交誼を大切にして人の輪を広げて下さい。

私達は心連心プログラムを通じて、卒業生のみなさんのさまざまな可能性を紡ぎだすサポートをします。第七期生も今後、両国で実施される新しい企画に積極的に参加して、実力と団結力を発揮してくださる様大いに期待しています。

日中交流センター

事務局長　片山　啓

私は2013年1月に日中交流センターに着任したので、7期生のみなさんとは研修期間の後半のお付き合いでした。中間研修ではじめて初めて会った皆さんは、もうすっかり日本の生活に慣れて、堂々としているように見えましたが、内面にはいろいろな悩みや不安もあったと思います。帰国後の進路はそれぞれだと思いますが、この研修を通して得た経験や人の輪を大切にして、それぞれの場で日中交流の担い手となってほしいと願っています。

本研修の実施にご協力いただきました関係者の方々にも、心からお礼申し上げます。

日中交流センター

事務局次長代理　野田　昭彦

七期生は来日時も帰国時も私が北京まで同行したこともあり、個人的に思い入れが深い。しかも、2012年は日中国交正常化40周年にして、日中関係は過去最悪と称されるまでに冷え込む中での滞在となってしまったことで、一層印象深い。15、6の高校生が1人異国の地で暮らすことなど、ただでさえ容易ではないことだが、日中関係悪化の影響で、彼らにとってさらに不利な環境になってしまうのではないかと不安だった。しかし、彼らは自分たちの“居場所”をしっかりと築き上げてくれた。それだけでなく、彼らの存在が周囲の日本人に冷静に中国を見る視座を提供することに貢献できたようだった。一人一人の行いが日中関係の大局に与える影響は確かに取るに足りないものなのかもしれない。しかし、彼らが蒔いた一つ一つの交流の種がいつか無数の花を咲かせ、両国を繋いでくれるのだと期待している。

日中交流センター

スタッフ　後井　隆伸

最近、このプログラムの卒業生に会う機会が多くなりました。現役生の来日や帰国時のレセプション、我々が主催する交流事業や活動にも多くの卒業生が参加してくれます。この子たちがかつては高校生で、日本に留学していたとは想像できないほど、大人っぽく又たくましく日中交流の担い手として頑張っている姿を見ると、本当に嬉しく思います。七期生の皆さんも、先輩と同様、成長した姿を見せに来てくれたら、お世話になった方々がどんなにか喜んでくださることでしょう。

留学生の受入れ事業に関わり、私自身が彼らから、そしてその周りの方々から学ぶことが沢山あります。多くの方々のお力添えに心から感謝しますとともに、これからも小さな交流大使たちを微力ながら応援していきたいと思います。

日中交流センター
スタッフ　豊川　佳奈

私が第七期生の皆さんと初めて会ったのは中間研修でした。積極的に発表する姿や、被災地での交流会で、物怖じせずに堂々と歌ったり踊ったりする姿に本当に高校生？！と大きな衝撃を受けたことを覚えています。しかし、そんな彼らでも様々な問題に直面していました。その度に考えて、悩んで、乗り越えて…。そして、そのひとつひとつを見事に「経験」という貴重な財産へと変容させていたように思います。その過程を支えてくださった受入校の先生方やホストファミリーの皆さま、その他多くのご関係者の皆さまには心より感謝申し上げます。また、私自身、生徒それぞれの人生の大切な一年に関わることができたことを本当に嬉しく思っています。今後の七期生の活躍を心よりお祈り致します。

日中交流センター
スタッフ　北野谷 麻穂

初めて第七期生に会ったのは北京の面接の時でした。全体の1/3弱が中学を卒業したばかりなのに、すぐに日本の高校一年の二学期に入り、留学生活に慣れるかどうか、心配していましたが、言葉の壁や生活習慣の違いで、悩みや心配事があったと思いますが、先生たちやホストファミリーから応援をいただいて、32名の高校生たちは最後まで頑張って困難を乗り越え、立派に成長したと思います。

一年間、学校の先生やホストファミリーの皆様方に大変お世話になり、ありがとうございました！

日中交流センター
スタッフ　林　虹

発行：独立行政法人 国際交流基金
日中交流センター

〒160-0004 東京都新宿区四谷4-4-1
TEL：03-5369-6074
FAX：03-5369-6043

Heart to Heart

JAPANFOUNDATION
国際交流基金
日中交流センター